

自転車用ヘルメットの使用に関するアンケート調査結果

【自転車の利用状況について】

- 自転車の利用状況は「週2～3日以上」が7割以上を占め、女性の方が男性より約8ポイント高くなった。また、女性では30代の利用頻度が高い傾向となり、また20代以下に比べて中高年層の方が利用頻度の高い傾向が見られた。
- 自転車の利用目的としては、男性・女性とも年代が上がるにつれて「買い物など近所への用事」の割合が高く、70代以上では女性92.3%、男性76.8%に達した。若年層になるほど「近距離への通勤・通学等」の割合が高く、20代以下では男性41.7%、女性45.8%となった。また、女性30代においては「子供の送り迎え」が16.7%となり、他年代に比べて高い傾向を示した。
- 利用目的が「通勤・通学等」および「子供の送り迎え」と回答した者では、利用頻度が週に4日以上の方が70%以上となった一方で、「買い物など近所への用事」では利用頻度が週に4日以上の方が38.2%となり、通勤・通学や子供の送り迎えと比べて利用頻度が低い傾向にある。

【自転車利用時の危害・危険経験について】

- 過去5年以内で、自転車利用時に危害・危険の経験した者は全体の約4割を占めた。負傷した者は計12.3%であり、全体の0.9%が入院に至った他、通院した者が4.1%、ケガをしたが病院には行かなかった者が8.2%であった。
- 危害・危険経験の際に関係した人・物については、単独が39.7%で最も多くなり、次いで自転車同士が33.9%、対乗用車が12.5%となった。また、危害・危険経験者に負傷部位を尋ねたところ、脚部が64.3%で最も多く、次いで腕部が38.0%であった。頭部を負傷した者は6.8%であった。
- 危害・危険経験時のヘルメット着用状況については、「ヘルメットは着用していなかった」との回答が86.1%を占めた。自転車用ヘルメットを着用していたと回答した者は11.9%で、0.9%は自転車用以外のヘルメットを着用していたと回答した。

【自転車利用時のヘルメット着用状況について】

- 令和5年4月の改正道路交通法の施行に伴って自転車利用時のヘルメット着用が努力義務となったことについて、認知率は93.2%であった。
- 自転車利用時のヘルメット着用状況については「常に着用している」が7.9%、「時々着用している」が7.5%、「持っているが着用していない」は6.8%であった。「常に」「時々」を合わせたヘルメットの着用率は15.4%であり、また着用状況を問わないヘルメットの所有率は22.2%となった。性別で見ると、男性の方が高い着用率となった。年代別では高

高齢者の方が着用率の高い傾向にあった(70代以上男性:26.2%、70代以上女性:20.8%)
一方、30代・40代では着用率が低い結果(40代男性:12.5%、40代女性:8.3%)となった。

- 利用頻度の高い通勤・通学層でのヘルメットの着用率は、近距離で12.6%となった。また高齢者層で自転車の利用目的が多くなった「買い物など近所への用事」でも、ヘルメット着用率は低かった。

【自転車乗車用に購入・使用しているヘルメットの状況について】

- 入手・購入したヘルメットの金額は、「3,000円～5,000円未満」が30.4%、「1,500円～3,000円未満」が28.4%となり、約6割が5,000円未満であった。また、自転車用ヘルメットの購入に適正と考える金額については、「3,000円～5,000円未満」が31.9%、「1,500円～3,000円未満」が26.6%で、計71.8%が5,000円未満を適正として考えていた。
- ヘルメットの購入において重視した/したい点については、「価格」と回答した者が60.6%と最も多く、次いで「デザイン」46.4%、「フィット感」31.8%の順となった。
- 所有しているヘルメットの種類を尋ねたところ、88.3%が「自転車用のヘルメット」と回答した。一方で所有しているヘルメットにおける規格・認証の表示を尋ねたところ、「SGマーク」が43.1%、「JCF公認/推奨マーク」が16.8%であった。一方、「CEマーク(EN1078かどうかは分からない)」が4.8%、「CEマーク(その他)」4.3%、「何もついていない」が10.2%となった。「わからない・気にしたこともない」と回答した者は21.9%であった。
- 所有しているヘルメット内側の状況を尋ねたところ、「内側の大部分を衝撃吸収材が覆っている」と回答した者は59.2%であり、「内側の一部分に衝撃吸収材がついている」が15.1%、「内側にクッションパッドがついている」が12.8%、「内側に衝撃吸収材やクッションパッドがない」と回答した者が5.1%となった。
- 所有しているヘルメットにおける取扱説明書の付属や注意・警告表示の本体への貼付状況を探ねたところ、いずれも5割以上が「日本語の記載のあるものが貼付/付属している」と回答した。「ない」と回答した者はそれぞれ13.5%、9.9%であった。また、それらの確認状況を尋ねたところ、「全て読んだ」者は取扱説明書:46.2%、注意・警告表示シール:48.7%、「一部は読んだ」者はそれぞれ40.1%、32.7%であった。
- ヘルメットを着用しない理由や着用時に感じることを尋ねた結果(複数回答)、「着用が面倒」が45.2%で最も多く、次いで「駐輪時にヘルメットの置き場所がない」、「着用で髪型が乱れる」、「着用で頭が蒸れたり熱がこもる」という回答がいずれも30%以上となった。

【自転車乗車時のヘルメットの着用実態について】

- ヘルメットのかぶり方については、「前から後ろにかけて水平になるように」が70.0%となった。また、着用時のサイズ調節状況については「適正なサイズ」が81.0%となった。あご紐の使用については「あごとあご紐の間に指1・2本ほどが入る」が58.1%となった一方、それよりも「きつめ」が22.9%、「緩め」が11.9%となった。あご紐の使用については、若年代ほど適正な調節としている割合が低い傾向にあった。

- 自転車降車時のヘルメットの扱いについては、「自転車のかごの中に置く」が 35.2%、「手で持ち運ぶ」が 21.3%、「かばんや袋に収納して持ち運ぶ」が 15.2%などとなった。
- ヘルメットの交換タイミングについては「ヘルメットを強くぶつけたら」は 13.8%、「メーカーが示している耐用期間が過ぎたら」は 11.5%に留まり、「ずっと使えるので替えるつもりはない」との回答も 9.1%あった。
- ヘルメットに耐用期間があることを認知していた者は全体で 13.2%、所有層でも 27.0%に留まり、全体で 71.0%、所有層で 49.8%の者が「知らなかった」と回答した。また、衝撃を受けたヘルメットの保護性能の低下については、「知っていた」との回答が全体で 30.1%、所有層では 46.8%となった。
- 自転車用ヘルメットへの改善希望（複数回答）については「デザイン」が 46.5%、「持ち運び性・保管性」が 35.7%、「通気性」が 32.8%となった。
- 自転車用ヘルメットが社会に浸透するために必要な取組（複数回答）については、「購入しやすい価格のヘルメットの普及」が 42.0%で最も多く、次いで「着用を義務にする」が 41.1%、「持ち運びが便利なヘルメットの普及」が 31.7%などとなった。

第1 調査概要

1 調査対象者と有効回答数

(1) 調査対象者

下記の条件を満たす方を、調査対象者とした。

- ・東京都に居住する 18 歳以上の男女
- ・予備調査で自転車の利用頻度を尋ね、週に 1 日以上利用すると回答した者

(2) 有効回答数

2,016 件

(3) 調査方法

Web を利用したインターネットアンケート調査

(4) 調査実施期間

令和 5 年 10 月 20 日（金曜日）から 10 月 24 日（火曜日）まで

(5) 集計・分析に関する注釈

回答比率（%）は、小数第 2 位を四捨五入して算出した。したがって、記載した回答比率を合計しても 100%とならない場合がある。

設問によっては、複数回答の結果、回答比率の合計が 100%を超える場合がある。

図に表記される「n=*（*は数字）」は、対象の母数を表す。

図や表の中での選択肢の文章が長い場合は簡略化して表記しているため、実際のアンケート調査における文章表記とは一致していない場合がある。

第2 アンケート結果

1 自転車の利用頻度

自転車の利用頻度を質問¹したところ(図 1)、全体の約半数にあたる 51.0%が「週に4日以上」の利用があると回答した。次いで 29.7%が「週に2日から3日」、残り 19.3%が「週に1日程度」と回答した。

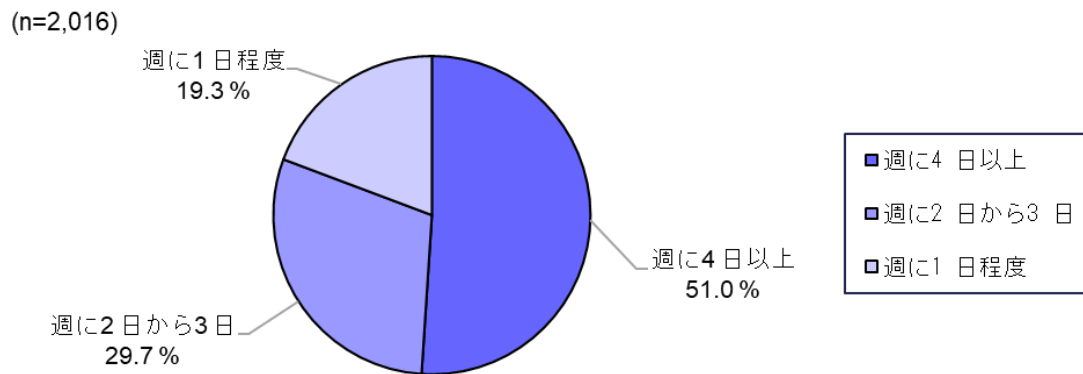


図 1 自転車の利用頻度 (単一回答) SQ4

¹ あらかじめ実施した予備調査において、自転車の利用頻度を質問し、「自転車を週1日以上利用する」と回答した者を対象に、アンケート調査を実施した。

性年代別の自転車利用頻度を図 2 に示す²。男女別にみると、男性に比べ女性の方が自転車の利用頻度が高い傾向があり、「週 4 日以上」では男性 46.2%、女性 55.9%、「週 2～3 日」以上の割合では男性計 76.7%、女性計 84.8%となった。

男性では、40 代において他年代に比べ「週 4 日以上」の割合が 54.8%と高く、他年代では 45%前後の人が週に 4 日以上自転車を利用している。また「週に 2～3 日」以上の利用頻度は男性 70 歳以上の割合が高い。女性では 30 代の利用頻度が他年代と比べてやや高い傾向となり、約 6 割の人が週に 4 日以上自転車を利用していると回答した。また、女性では 20 代以下に比べて中高年層の利用頻度が高い傾向となった。

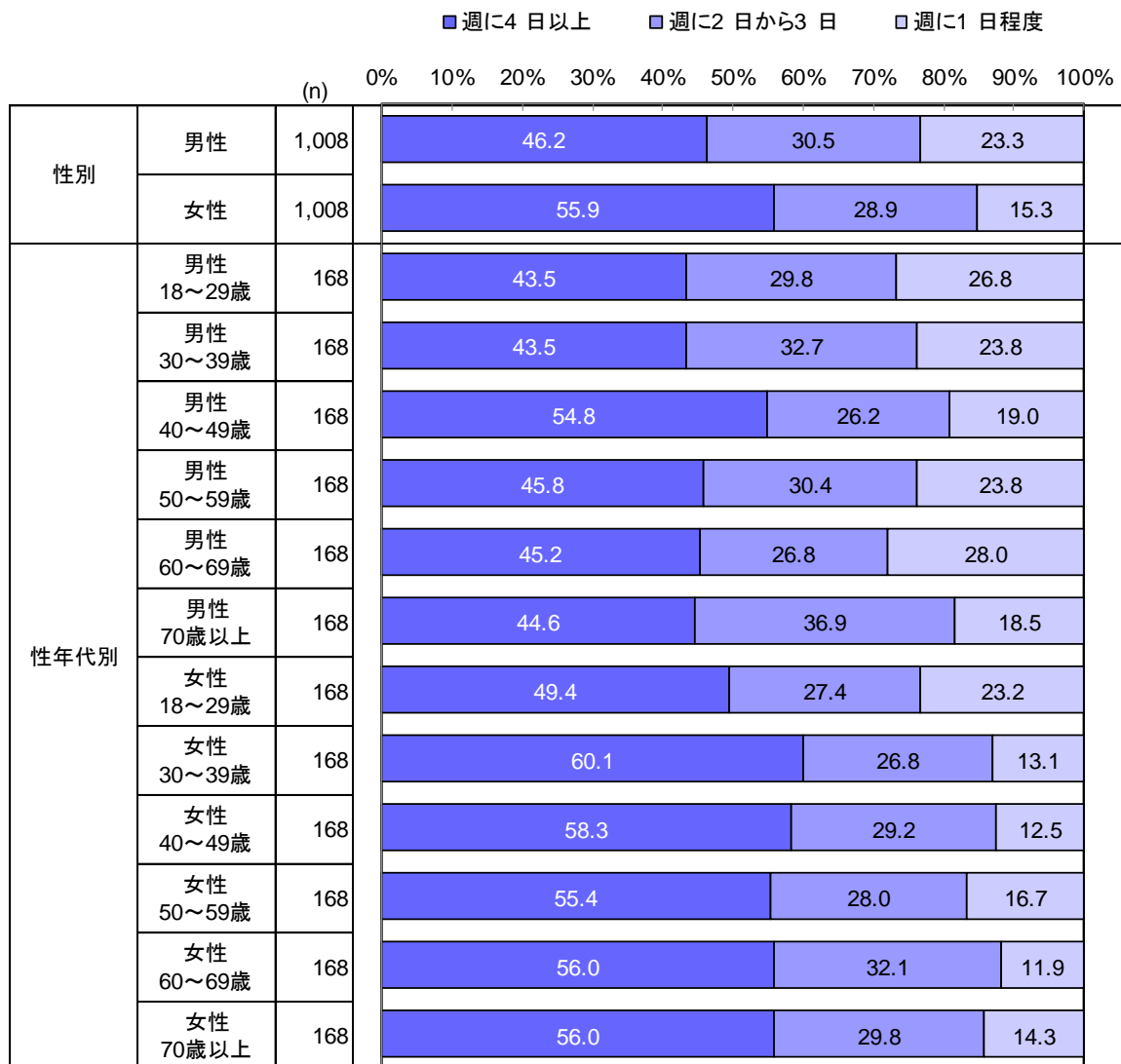
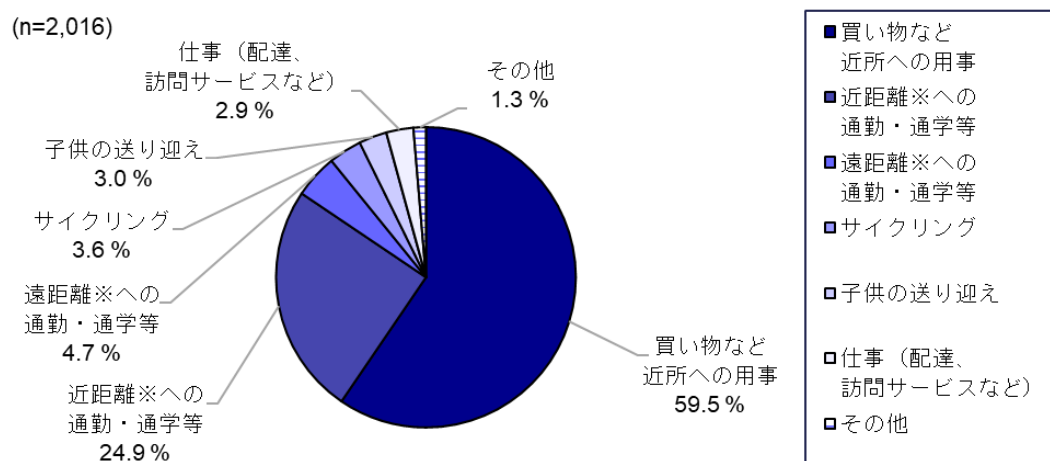


図 2 性年代別の自転車利用頻度 SQ1×SQ2×SQ4

² あらかじめ実施した予備調査において、自転車の利用頻度を質問し、「自転車を週 1 日以上利用する」と回答した者を対象に、アンケート調査を実施した。

2 自転車の利用状況

自転車を利用する主な目的（図 3）としては、「買い物など近所への用事」が最も多く、59.5%を占めた。次いで「近距離への通勤・通学等」が24.9%となった。「その他」の詳細としては、自由記述回答に「通院」（6件）、サイクリング、スポーツクラブなどを含む「運動」（7件）、用事や駅など「目的地への移動手段」（12件）などがあった。



※「近距離」とは、概ね10分～15分以内（2～3キロメートル程度）で、最寄駅や職場・学校・目的地に到達できる場合とし、それを超える場合は「遠距離」とした。

また自転車の利用目的ごとに利用頻度³の割合を見ると（図 5）、「近距離への通勤・通学等」、「遠距離への通勤・通学等」および「子供の送り迎え」では「週に4回以上」の割合が70%以上となっている。一方で「買い物など近所への用事」では、週に4回以上の割合が38.2%にとどまり、通勤・通学や子供の送り迎えと比較すると利用頻度が低い傾向にあることがわかる。

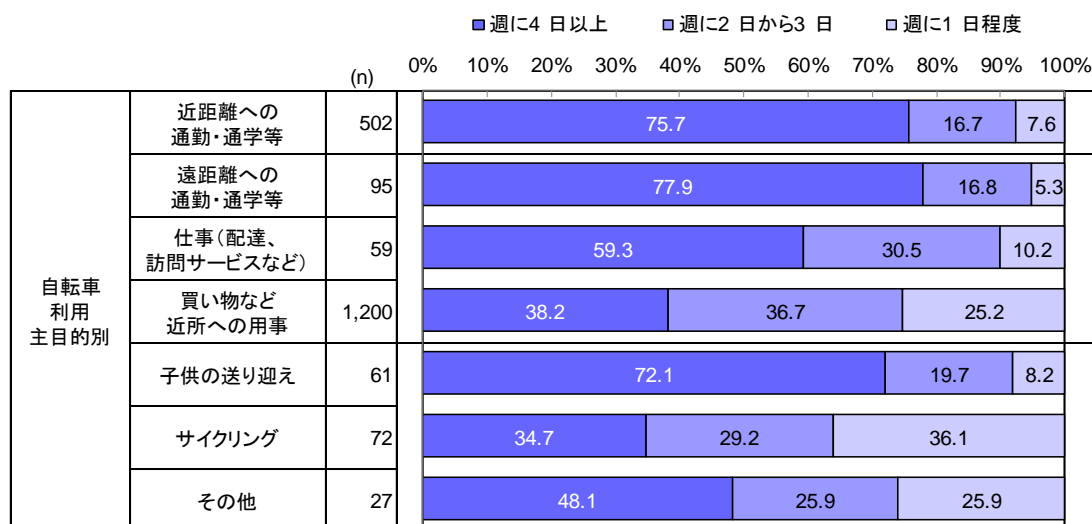


図 5 自転車利用目的別の自転車利用頻度 SQ4×Q1

※「近距離」とは、概ね10分～15分以内（2～3キロメートル程度）で、最寄駅や職場・学校・目的地に到達できる場合とし、それを超える場合は「遠距離」とした。

普段利用している自転車の種類を尋ねた結果（図 6）、一般自転車（シティサイクル）でチャイルドシートを装着していないものが58.9%、次いで電動アシスト自転車でチャイルドシート装着なしのものが17.4%となった。チャイルドシートを装着した自転車を利用している者は、一般自転車・電動アシスト自転車をあわせて10.3%となった。

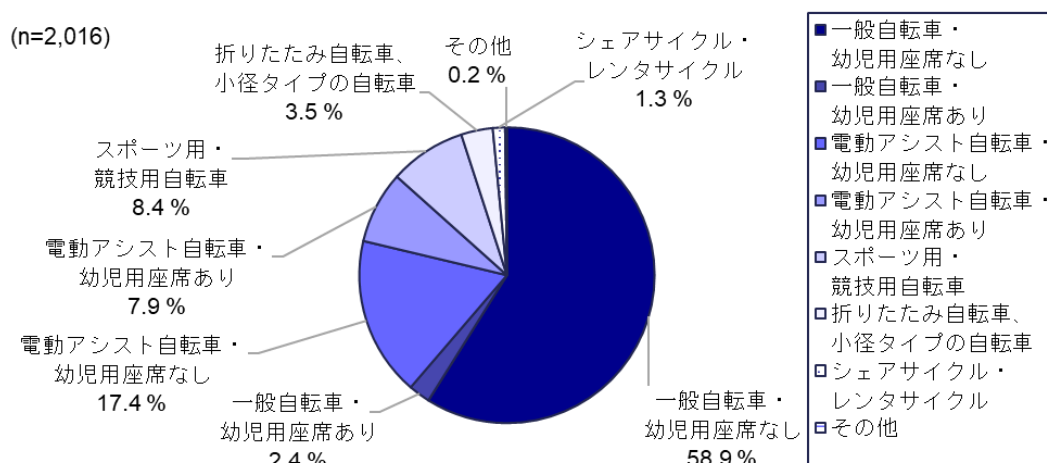


図 6 自転車の種類（単一回答）Q2

³ あらかじめ実施した予備調査において、自転車の利用頻度を質問し、「自転車を週1日以上利用する」と回答した者を対象に、アンケート調査を実施した。

3 自転車乗車時の危害・危険経験の実態

過去5年以内を目途に、自転車利用時に接触・衝突・転倒などをしたり、しそうになった経験の有無（以下「危害・危険経験」と表記する。）を尋ねた結果（図7）、「経験により、ケガをして入院した」、「ケガをして通院した」「ケガをして病院には行かなかった」と回答した者は合わせて計13.2%になった。「ケガをしそうになった」と回答した者は9.2%、危害・危険経験を「しそうになった」と回答した者は17.7%であり、あわせて約4割の回答者が危害・危険経験があると回答した。

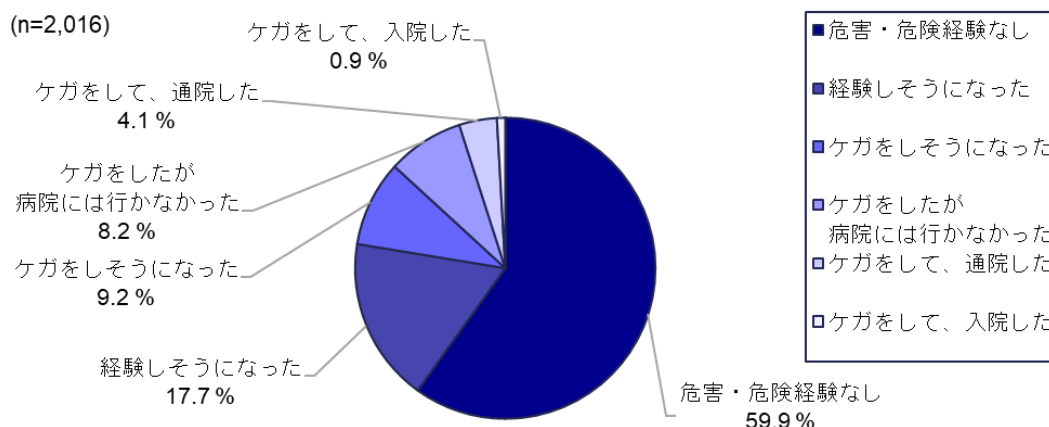


図7 危害・危険経験の状況（単一回答）Q3

危害・危険経験の際に関係した人・物（図8）については、「自転車単独」が最も多く39.7%、次いで「自転車同士」で33.9%、「対乗用車」で12.5%となった。

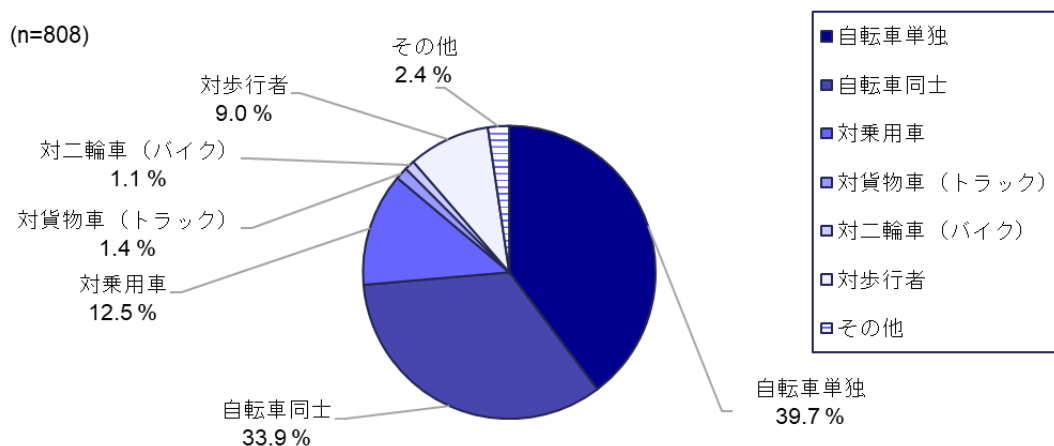


図8 危害・危険経験において関係した人・物（単一回答）Q4

危害・危険経験時のヘルメット着用状況（図 9）については、「ヘルメットを着用していなかった」と回答した者が 86.1%を占めた。「自転車用のヘルメットを着用していた」と回答した者は 11.9%であった。

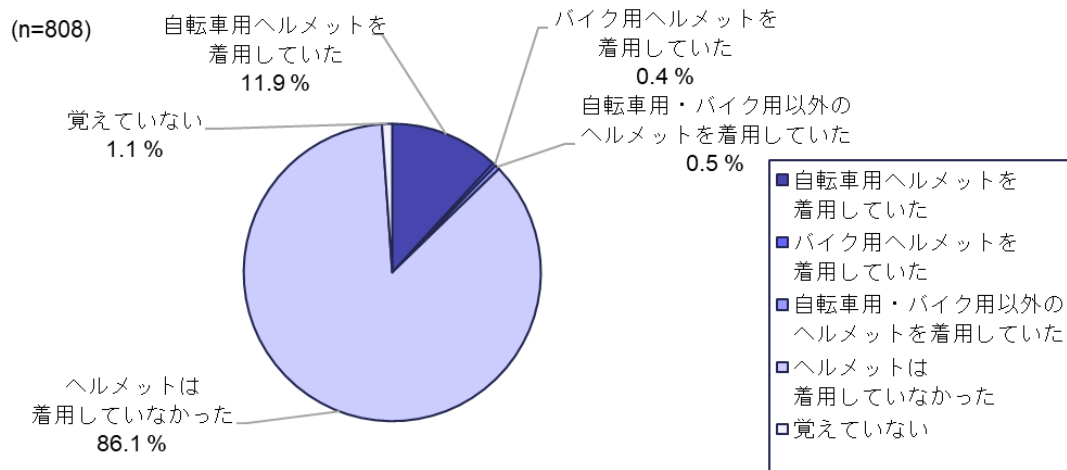


図 9 危害・危険経験時のヘルメット着用状況（単一回答）Q5

危害経験時に負傷した自身の身体の部位（図 10）については、「脚部」と回答した者が 64.3%であり、次いで「腕部」が 38.0%、「顔面」が 11.3%となった。「頭部」については 6.8%となった。

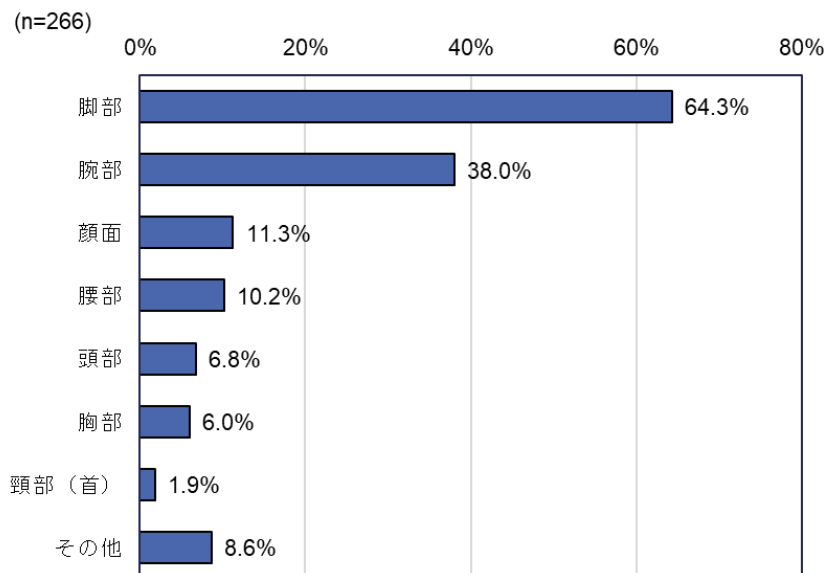


図 10 危害経験時の負傷部位（複数回答）Q6

4 危害・危険経験時の詳細

危害・危険を経験した者に、経験時の状況の詳細について自由記述形式で尋ね、得られた回答の内容に対して分類を付与し、その件数を集計した（分類有効件数計 787 件）。集計結果を表 1 に示す。また、代表的な回答を表 2 に示す。

分類 1 のうち最も多かったのは「他者・他車両由来」で、半数以上の 458 件あった。このうち、約半数にあたる 236 件が他者の自転車（電動アシスト自転車を含む）の関与するものであり、次いで自動車の関与するものが 102 件あった。分類 1 で次に多かったのは「運転操作」で、192 件のうち 117 件がふらつきやハンドル操作に起因するものであった。

「気象条件」は 80 件あり、このうち「雨・雪」が 57 件該当した。雨天や雨上がりの濡れた路面、降雪時・降雪後の凍結路面、マンホール・点字ブロックなどでタイヤを滑らせた、という事例が多くみられた。「道路状況」（132 件）については半数にあたる 66 件が「段差・縁石」で、段差でタイヤやハンドルを取られるなどして転倒した事例が多くみられた。

表 1 危害・危険経験時の詳細回答の分類結果と件数（複数回答） Q7 (n=787)

分類 1	分類 2	件数 (件)
気象条件等		80
	雨・雪（すべって転倒等）	57
	風（あおられて転倒等）	6
	夜	19
道路状況		132
	坂道	9
	段差・縁石	66
	電柱・ガードレール等	15
	狭い道	20
	マンホール・側溝・溝蓋	13
	その他	18
自車車両由来	ブレーキ、ギア等	8
運転操作等		192
	ふらつき・ハンドル操作	117
	ブレーキ操作	15
	わき見等	14
	その他	46
他者・他車両由来		458
	自動車	102
	バイク・原付	6
	自転車（電動アシスト含）	237
	歩行者	69
	その他／不明	44
子供同乗・2人乗り		22

表 2 危害・危険経験時の詳細 Q7

分類		回答内容
他者・ 他車両由来	自転車	駅に向かっている途中で、速度を落として曲がろうとしたときに、猛スピードで相手が右折してきて自転車の前かごにぶつかり、転倒した。転倒したときに道路に頭をぶつけた。お互いに同乗者はなく、ヘルメットも着用していなかった。(40代・女性)
	自転車	交差点で下ってきた自転車と正面衝突した。ヘルメットを着用していた。脚・腕に軽い打撲。同乗者無し。(50代・男性)
	歩行者	曲がり角の先から子どもが飛び出してきてぶつかりそうになった。急ブレーキをかけ衝突は避けられたものの、私は壁に肘を擦った。ヘルメットは着用しており、同乗者はいなかった。(10代・女性)
	自動車	停車中の乗用車を追い抜く際、突然車の運転席のドアが開いて自転車ごとドアに跳ね飛ばされ、足を強打し全治2週間程度の怪我。当時はヘルメットを持っておらず、着用していなかった。(80代・男性)
運転操作等	ふらつき・ ハンドル操作	歩道の歩行者を自転車で追い越そうとした時に側溝にはまり、バランスを崩して左顔面からアスファルトに衝突。ヘルメット着用なし。顔面をケガし、その後外傷性白内障と診断された。(50代・男性)
	ふらつき・ ハンドル操作	バイク侵入禁止用ポールにペダルを引っ掛けて転倒し、頭をポールにぶつけた。ヘルメットはかぶっておらず、後頭部を打撲。同乗者はいなかった。(70代・男性)
	その他	夜間、走行中に靴紐がほどけペダルに絡まり横転。頭などを打った。ヘルメット未着用で同乗者なし。頭に裂傷を負って病院で治療を受けた。(60代・女性)
	その他	駐輪場で自転車を降りた後、後ろのチャイルドシートの子供が急に立ち上がり、自転車が動き出して倒れた。(30代・女性)
気象条件等	雨・雪	雨の日の買い物帰りに段差で滑って転倒した。自転車カゴに買い物袋が入っていてバランスが取れなかった。右肘、右膝を擦りむいた。ヘルメットは未着用。(20代・女性)
	雨・雪	雨の日に自転車で昼食を買いに行こうとして、点字ブロックでタイヤを滑らせて転倒し、左足を膝から足首まで複数骨折。ヘルメット着用なし、同乗者なし。(50代・男性)
道路状況	段差・縁石	車道から歩道に乗り上げる際に突起物があり、うまくタイヤが乗り上げられず、転倒して額をぶつけた。(30代・女性)

5 自転車用ヘルメットの着用状況等

アンケート対象者全員に、令和5年4月1日付での改正道路交通法の施行に伴い、自転車利用時のヘルメットの着用が努力義務となったことの認知状況を尋ねたところ(図11)、「知っている」と回答した者が93.2%を占めた。

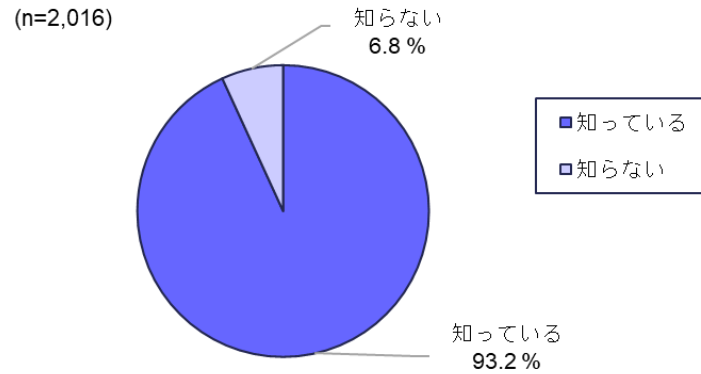


図11 自転車用ヘルメットの着用義務化に関する認知状況(単一回答) Q8

自転車利用時のヘルメットの着用状況を尋ねた結果(図12)、「常に着用している」割合は7.9%、「時々着用している」割合は7.5%と、あわせて15.4%が着用頻度によらずヘルメットを着用している結果となった。また、「今は持っておらず着用していないが、今後入手し着用するつもり」と回答し、今後の着用意向を有する者は33.2%であった。一方で「持っておらず、今後着用するつもりもない」と回答した者が44.8%となった。

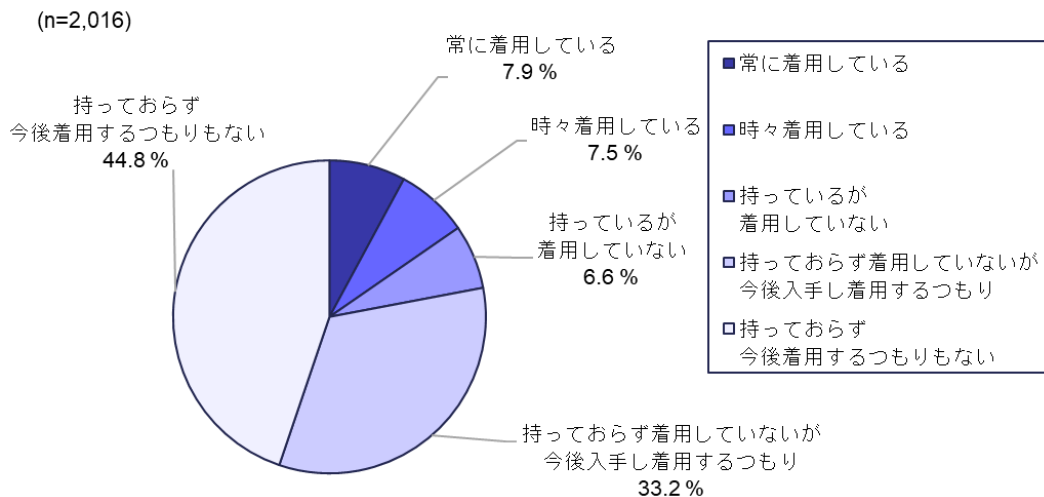


図12 自転車利用時のヘルメット着用状況(単一回答) Q9

性年代別のヘルメット着用状況（図 13）をみると、男女別では、男性の方が着用率が高い。また、男性・女性とも 60 代や 70 代以上といった高齢者層が「常に着用している」、「時々着用している」等の割合が高い傾向にある一方、30 代や 40 代ではそれらの割合が低い。一方で男女とも 20 代以下では 30 代や 40 代と比べてやや着用率が高い傾向となっている。

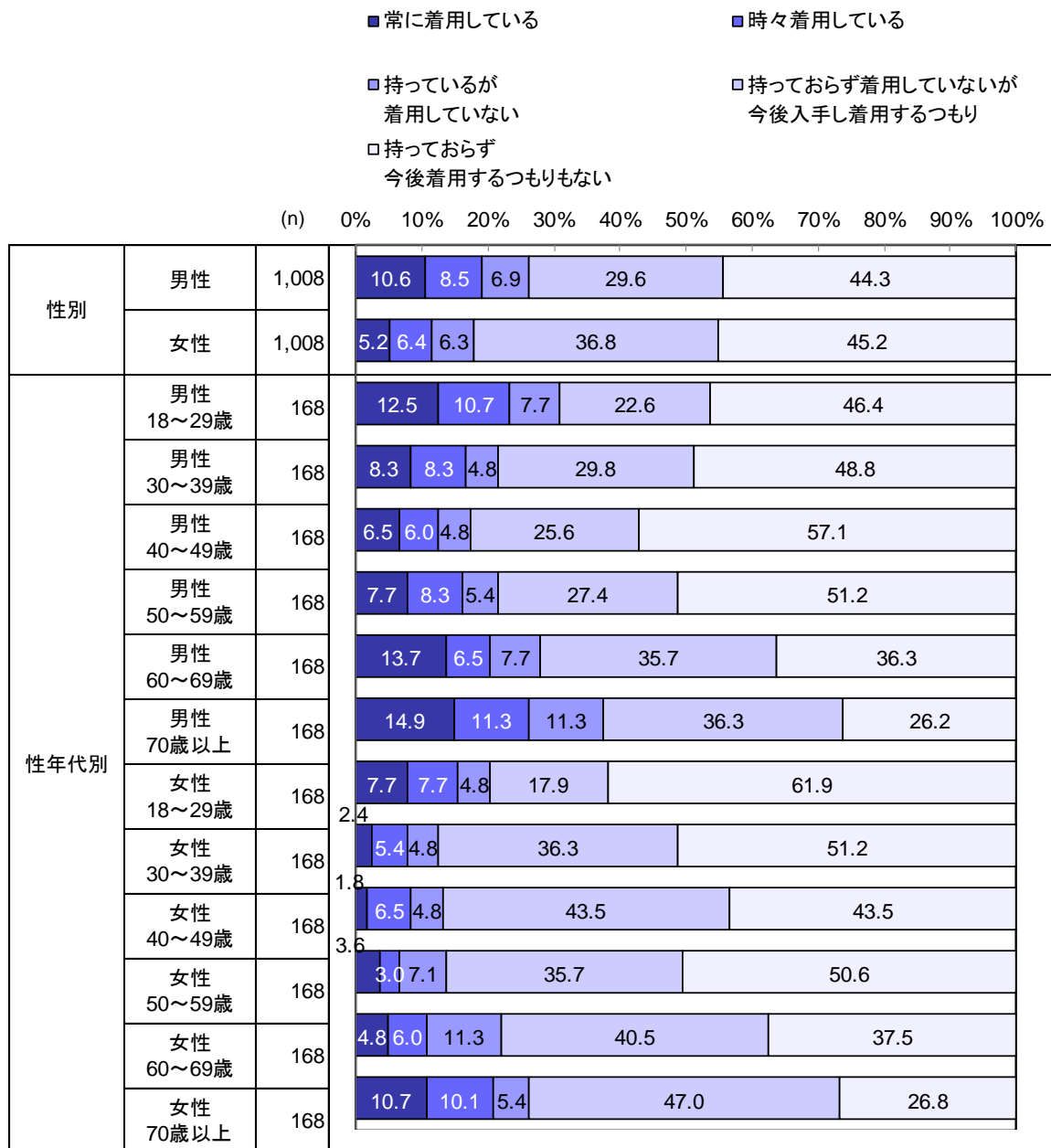


図 13 性年代別のヘルメット着用状況 SQ1×SQ2×Q9

自転車の利用頻度別にヘルメットの着用状況を比較したところ（図 14）、利用頻度によってヘルメットの着用状況は大きく変わらず、「常に着用している」は 7.5～8.4%、「時々着用している」は 5.7～9.4%、「持っておらず、今後着用するつもりもない」は 42.5～49.1%の割合となった。

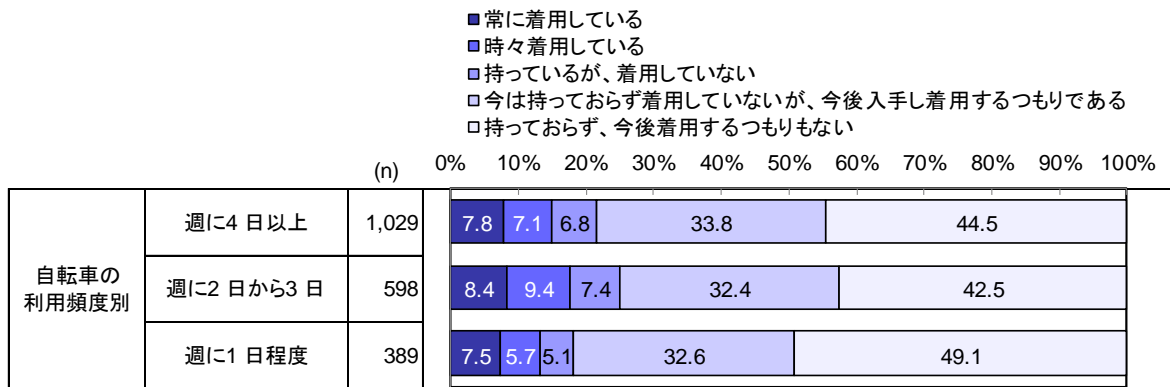


図 14 自転車の利用頻度別のヘルメット着用状況 Q9×SQ4

自転車の利用目的別にヘルメットの着用状況をみると（図 15）、「サイクリング」で自転車を利用する層で、「常に着用している」が 27.8%、「時々着用している」が 13.9%と、他の層に比べて着用率が高い傾向にある。また、「仕事（配達、訪問サービスなど）」のために自転車を利用する層でも、「常に着用している」が 18.6%、「時々着用している」が 16.9%と高くなっている。一方で、「近距離への通勤・通学等」や「買い物など近所への用事」のために自転車を利用する層においては、ヘルメットの着用率が低い。

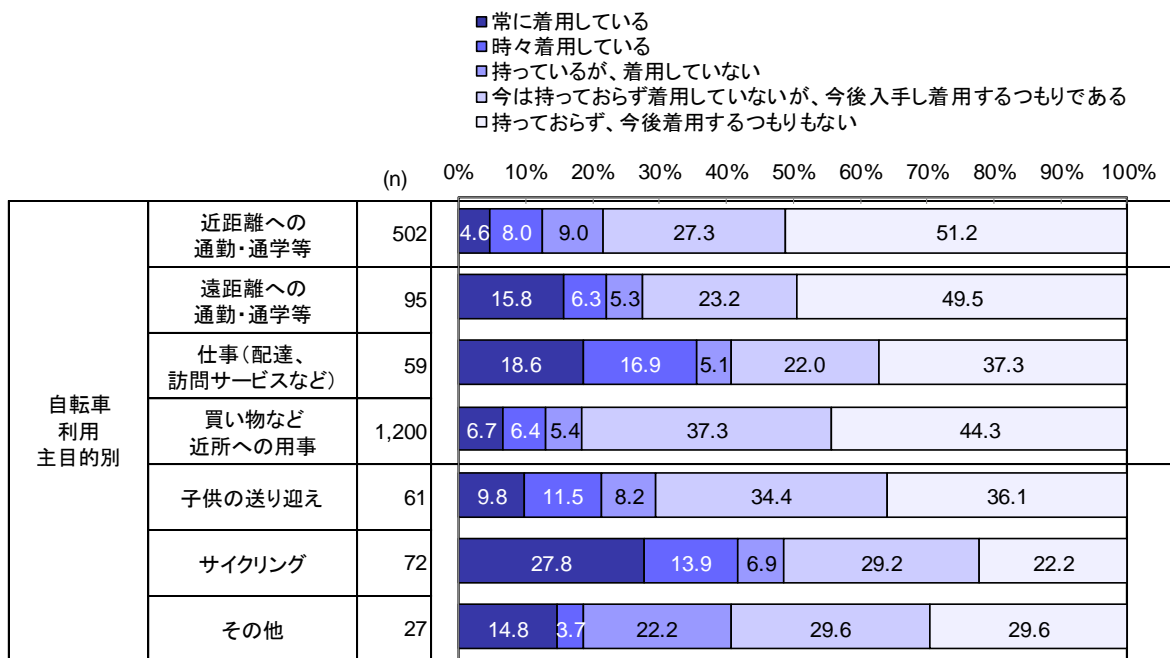


図 15 自転車の利用目的別のヘルメット着用状況 Q1×Q9

6 ヘルメットの入手行動等

ヘルメット着用状況における設問で、「持っておらず、今後着用するつもりもない」以外の回答を選んだ者にヘルメットの入手・購入動機を尋ねた結果（図 16）、「事故時に頭部を守るため」が70.2%と最も多くなった。次いで「ヘルメット着用が努力義務となったから」が42.9%となり、令和5年4月の改正道路交通法の施行を契機にヘルメットを購入した者が一定数いることが分かった。「その他」の自由記述の回答として、「危険や必要性を感じた」が9件、「行政のヘルメット購入補助金の活用」との回答が5件、「店員や家族の勧め、会社の指示」が3件あった。

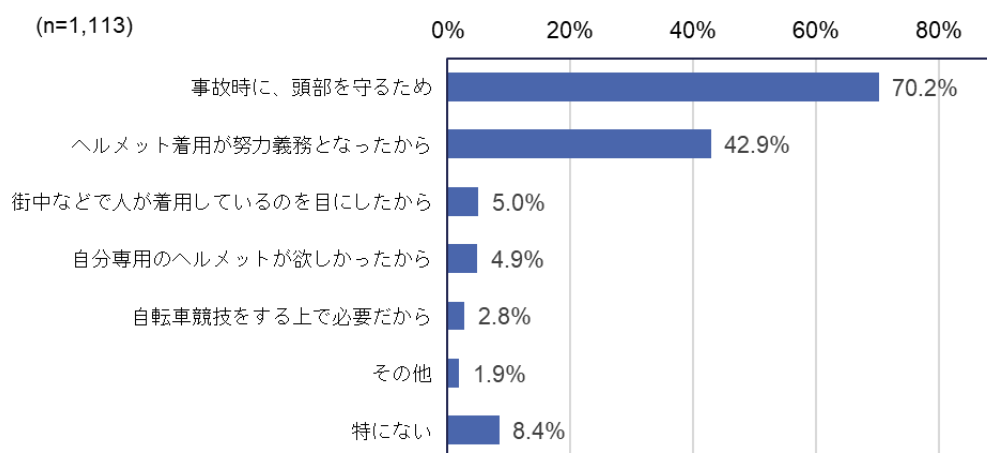


図 16 ヘルメットの入手・購入動機（複数回答）Q18

ヘルメットを持っている者に対してヘルメットの入手・購入場所を尋ねた結果（図 17）、「自転車販売店」が最も多く34.9%となり、次いでインターネット販売サイト（自転車販売店・家電量販店などのオンライン販売サイトを除く）が28.8%、ホームセンターが14.0%の順となった。「その他」としては、登山用品店・スポーツ用品店、会社支給・家族や友人からの譲渡が各4件あった。

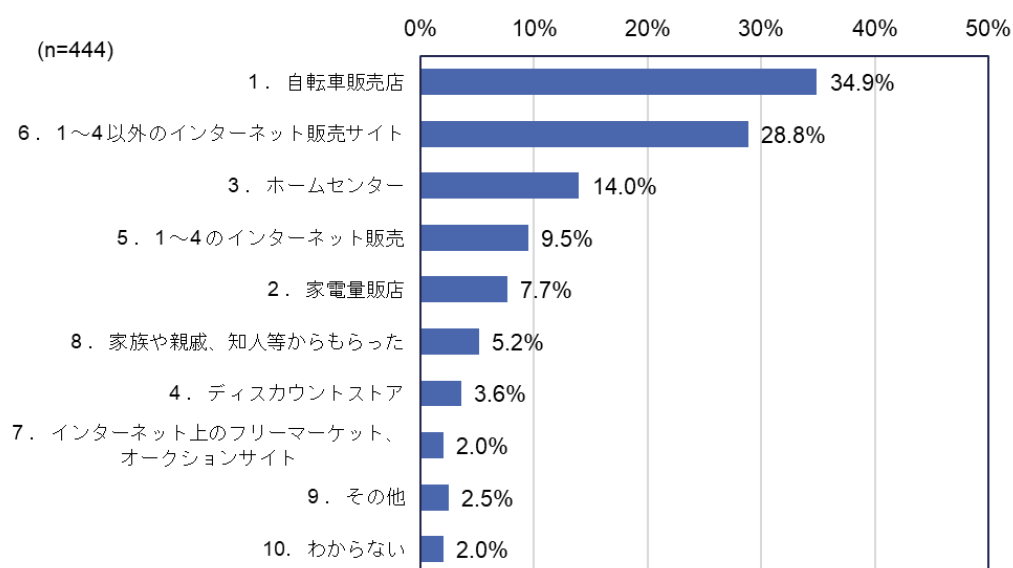


図 17 ヘルメットの購入場所（複数回答）Q11

7 所有しているヘルメットの詳細

ヘルメットの購入金額（図 18）は、「3,000 円～5,000 円未満」が最も多く 30.4%となり、次いで「1,500 円～3,000 円未満」が 28.4%となった。「1,500 円未満」と回答した者は 4.1%であった。

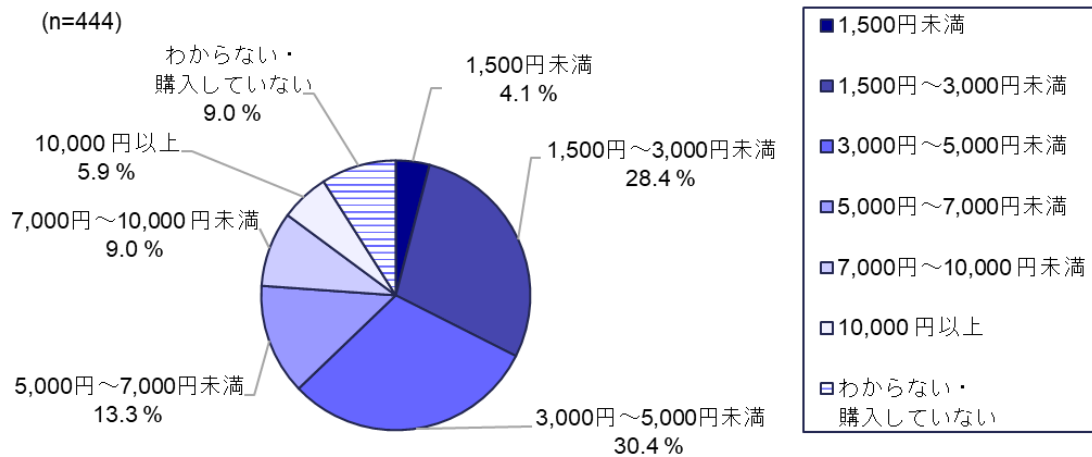


図 18 ヘルメットの購入金額（単一回答）Q12

ヘルメットを着用している者に、所有しているヘルメットの種類を尋ねた（図 19）。「自転車用のヘルメット」と回答した者が 88.3%となった一方で、「バイク用のヘルメット」と回答した者が 3.4%、「自転車用・バイク用以外のヘルメット」と回答した者が 4.5%となった。

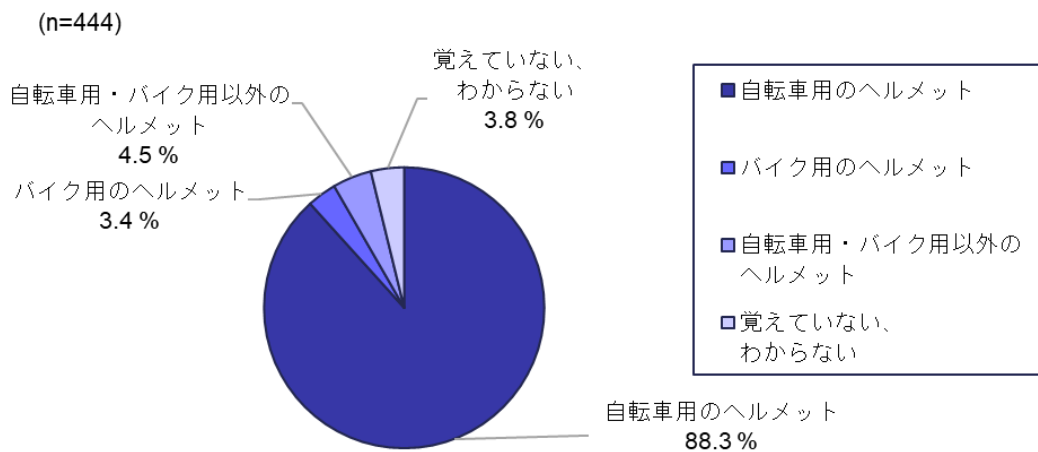


図 19 ヘルメットの種類（単一回答）Q13

自転車用ヘルメットを所有していると回答した者に、持っているヘルメットの規格・認証の適合表示を尋ねた（図 20）。「SG マーク」と答えた者が 43.1%で最も多く、次いで「JCF 公認/推奨マーク」が 16.8%、「CE マーク (EN1078)」が 12.0%となったが、CE 基準の表示があるが EN1078 かどうかは分からない、と回答した者は 4.8%、CE マーク (その他) と回答した者は 4.3%となった。「何もついていない」と回答した者は 10.2%であった。

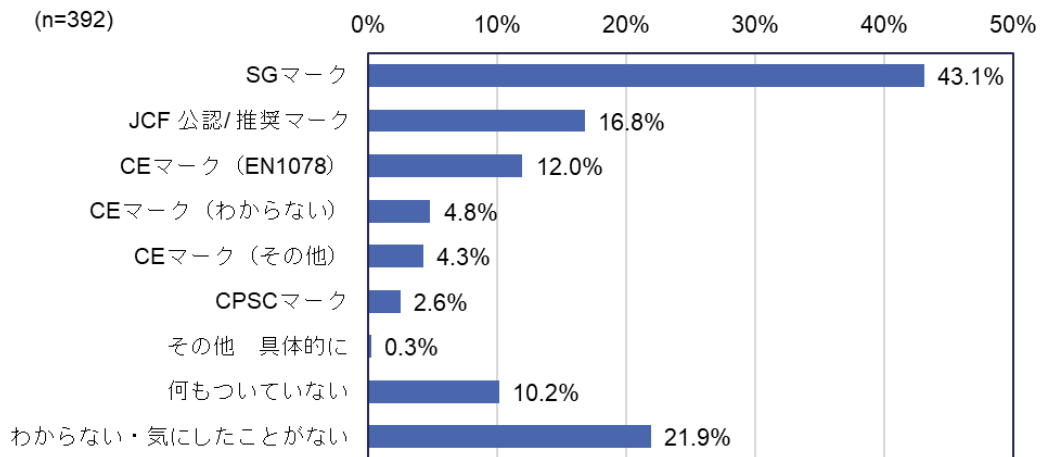


図 20 所有しているヘルメットにおける認証規格・基準（複数回答） Q14

さらに、自転車用ヘルメットを所有していると回答した者に、持っているヘルメットのライナー（内側の衝撃吸収材）について尋ねた。「ヘルメットの大部分を衝撃吸収材が覆っている」と回答した者が 59.2%と最も多い結果となった一方で、「ヘルメット内側の一部分のみに衝撃吸収材がついている」との回答が 15.1%、ヘルメット内側に衝撃吸収材はないが、クッションパッドがついている」が 12.8%、「衝撃吸収材やクッションパッドがない」と回答した者が 5.1%となった。

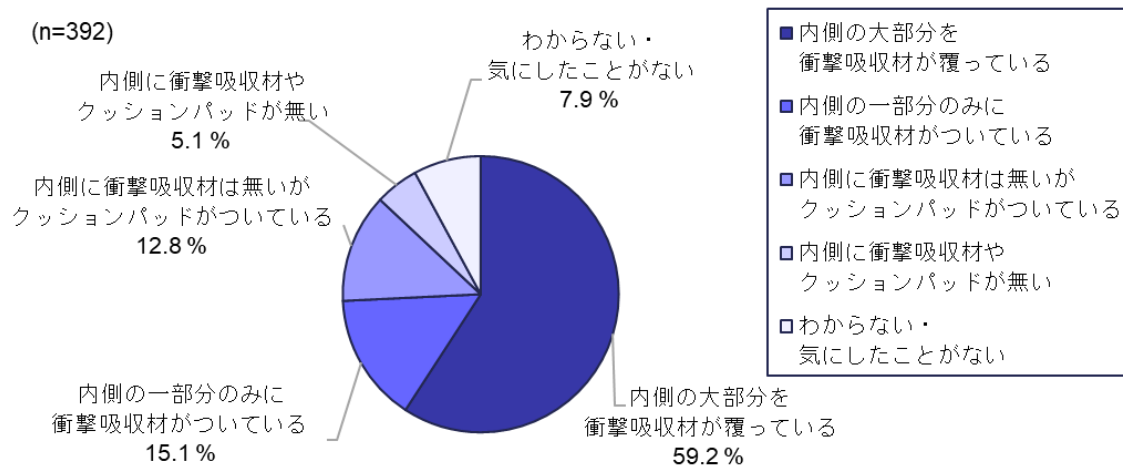


図 21 ヘルメット内側の衝撃吸収材の有無（単一回答） Q15

8 所有しているヘルメットの注意表示等に関する状況

自転車用ヘルメットを所有していると回答した者に、持っているヘルメットの取扱説明書の付属状況および本体における注意・警告表示の有無（シールの貼付）を尋ねた（図 22）。

日本語で記載された取扱説明書が付属していたと回答していた者は 54.1%であり、外国語の記載のみの取扱説明書は 3.1%、取扱説明書が付属していなかったと回答した者は 13.5%であった。

また、本体の注意・警告表示については、日本語で記載されたシールが貼られていると回答した者は 50.8%であり、シールはあるが外国語の記載のみとの回答が 8.7%、シールがないと回答した者は 9.9%であった。

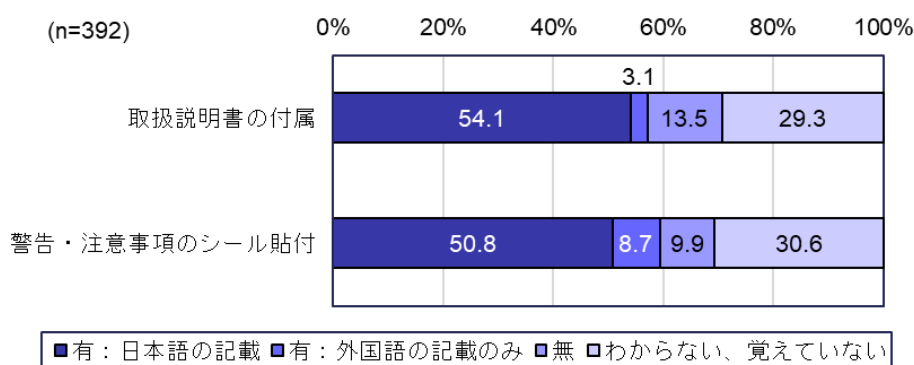


図 22 所有しているヘルメットにおける取扱説明書の付属および警告・注意表示シールの貼付状況（個別単一回答）Q16

前問で日本語の取扱説明書の付属や注意・警告表示があったと回答した者に対し、取扱説明書や警告・注意表示を読んだか否かを尋ねた結果を図 23 に示す。取扱説明書については、「全て読んだ」と回答した者が 46.2%、「一部は読んだ」が 40.1%であった。警告・注意表示については「全て読んだ」と回答した者は 48.7%、「一部は読んだ」が 32.7%となり、いずれも 8 割以上の者が一部でも説明内容を確認したと回答した。「読んでいない」との回答は、警告・注意表示で 13.6%、取扱説明書で 10.4%となった。

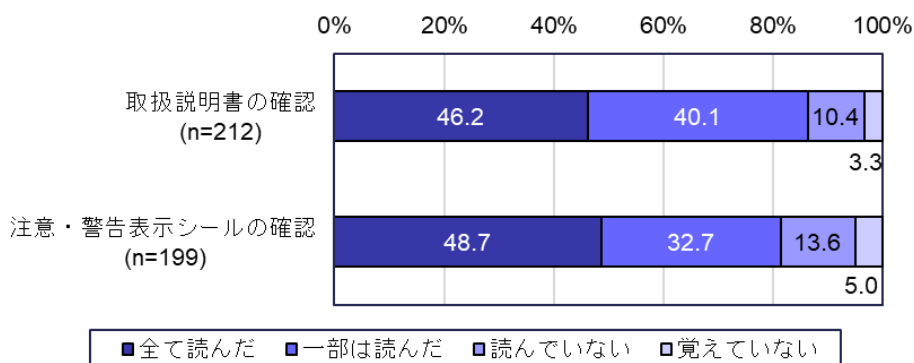


図 23 取扱説明書および警告・注意表示の確認状況（個別単一回答）Q17

自転車利用時にヘルメットを着用しない理由や、着用していて感じることを複数選択回答式で尋ねた結果を図 24 に示す。「着用が面倒」と回答した者が最も多く、全体の 45.2%を占め、次いで「駐輪時にヘルメットの置き場所がなく荷物となる」が 37.5%、「着用で髪型が崩れる」が 31.8%、「着用で頭が蒸れたり熱がこもる」が 30.1%となった。

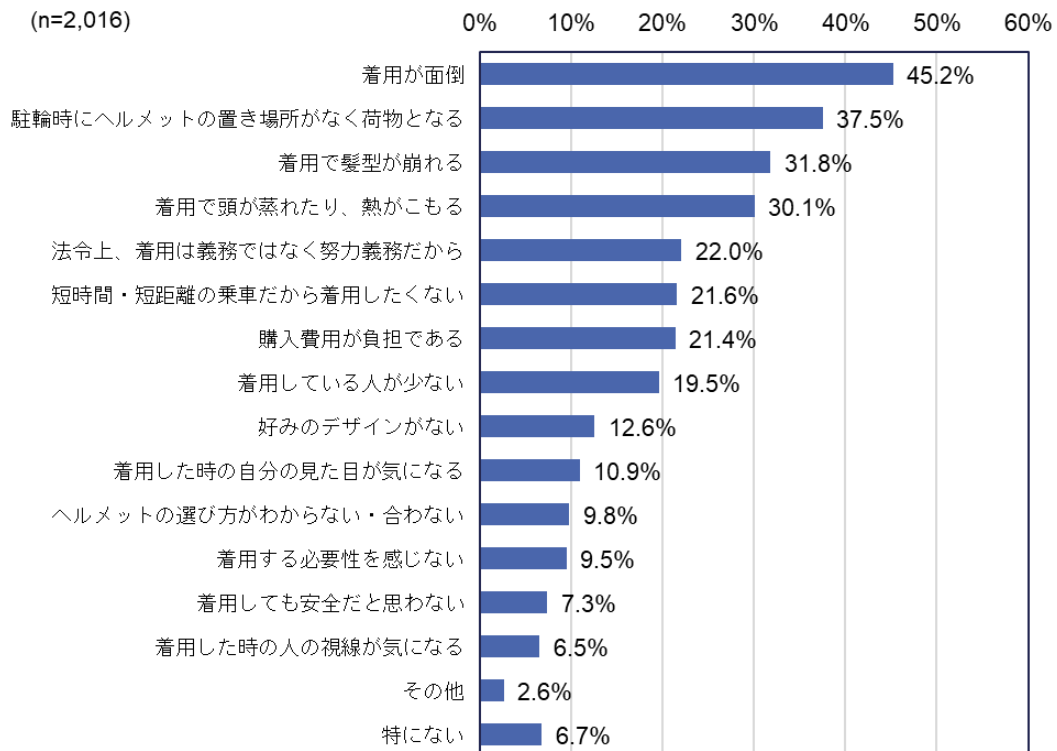


図 24 ヘルメットを着用しない理由や、着用していて感じること（複数回答）Q10

「その他」の回答者における自由記述式の回答内容を基に分類を付与し、その数を集計した結果を表 3 に示す。「装着時の快適性・運転時の支障」においては、「視界が狭くなり却って危険」「頭が重くなって運転に集中できない」といった回答が複数あった。

表 3 ヘルメットを着用しない理由や、着用していて感じることに関する

「その他」の自由記述式回答の分類と件数 Q10

分類	件数 (件)
装着時の快適性・運転時の支障	13
外出時の荷物、盗難等の懸念	10
購入の煩雑性	4
体調面の理由	4
周囲の着用状況	3
その他	17

Q9 (図 12) のヘルメット着用状況の設問において、ヘルメットを「常に着用している」および「時々着用している」層（以下「着用層」と表記する。）と「持っているが、着用していない」「今は持っておらず着用していないが、今後入手し着用するつもり」「持っておらず、今後着用するつもりもない」と回答した層（以下「非着用層」と表記する。）に分けて、上記のヘルメットに対する印象の回答を比較した（図 25）。

着用層と非着用層の間で大きな違いがあるのは、「着用が面倒」（着用層 30.6%、非着用層 47.9%）、「購入費用が負担」（着用層 6.8%、非着用層 24.0%）、「法令上、着用は努力義務だから」（着用層 7.7%、非着用層 24.6%）、「短時間・短距離の乗車だから着用したくない」（着用層 16.1%、非着用層 22.6%）などであった。一方、着用層・非着用層の間で大きな差がなく回答割合が高かった回答としては、「着用で髪型が崩れる」（着用層 31.9%、非着用層 31.8%）、「着用で頭が蒸れたり熱がこもる」（着用層 31.6%、非着用層 29.8%）などであり、自転車用ヘルメットの着用に係る主要課題として自転車利用者に認知されていると言える。

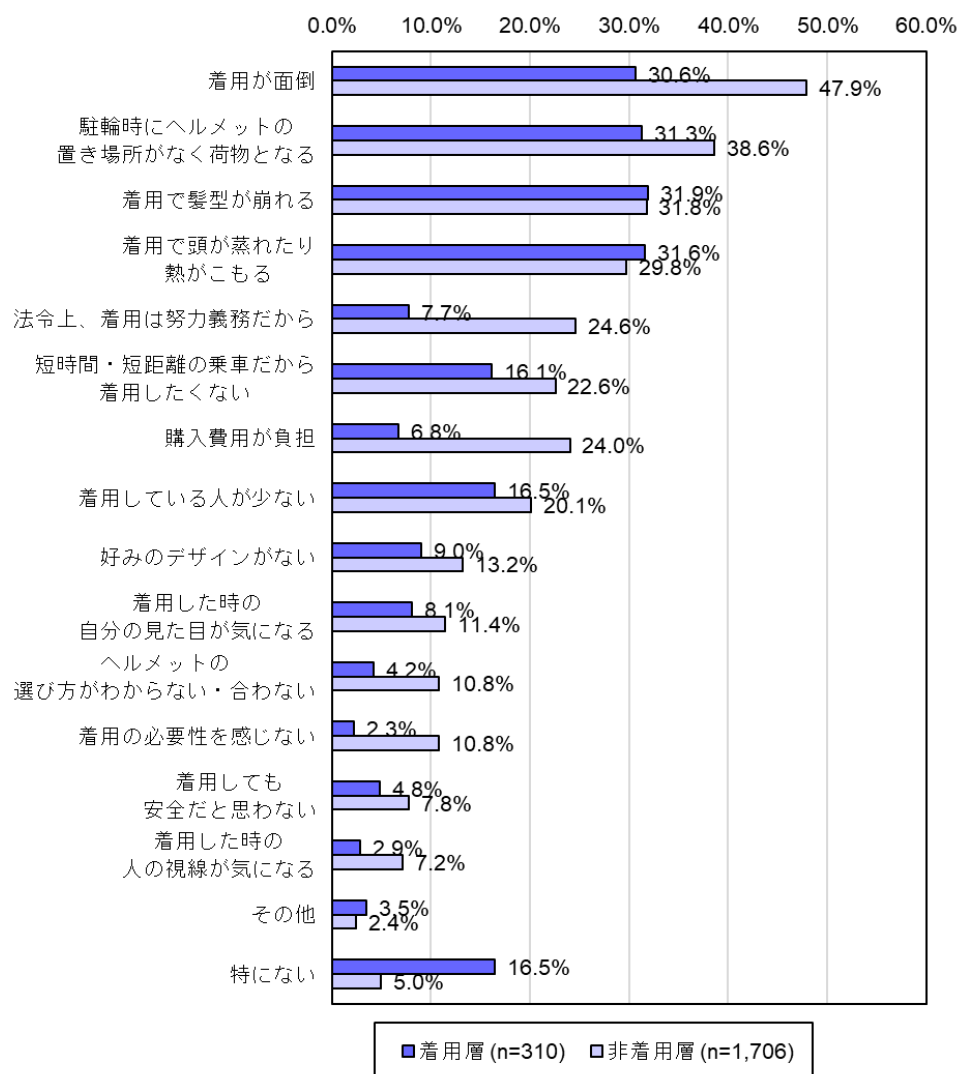


図 25 ヘルメットを着用していて感じること／ヘルメットを着用しない理由についての、着用層・非着用層間での比較（複数回答）Q10×Q9

ヘルメットの購入・入手において重視した、あるいは重視する点を1番目から3番目まで順に尋ねた結果を図26に示す⁴。「価格」が60.6%と最も多くなった。「価格」は選択順位1番目から3番目の全てで最も多い割合を示した。次いで「デザイン（形状・色）」46.4%であり、本項目も選択順位1番目から3番目の全てで「価格」に次いで2番目に多くなった。

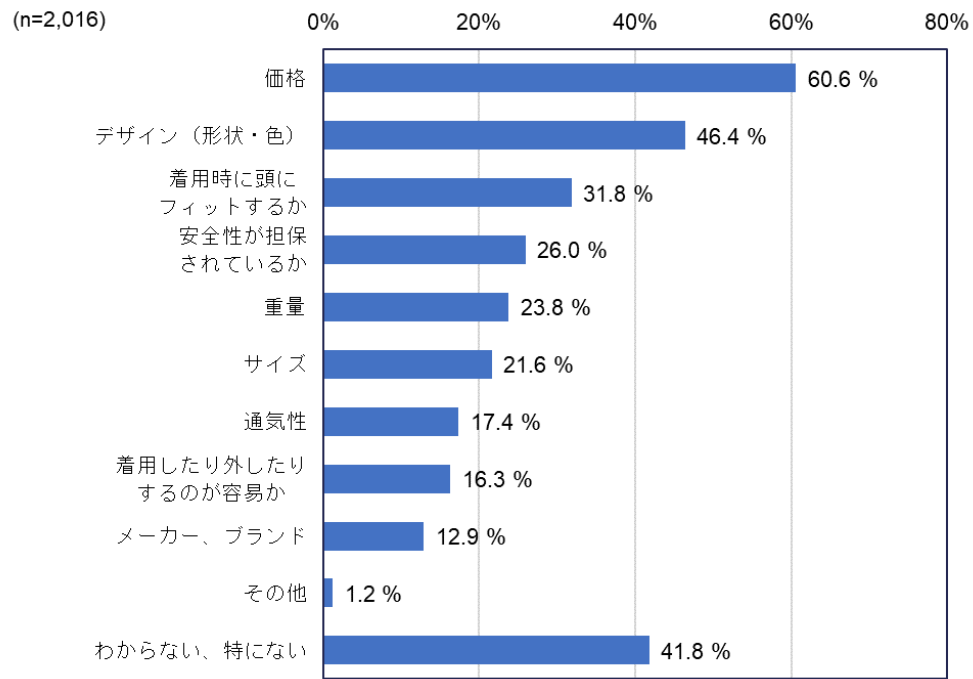


図 26 ヘルメットの購入時において重視する点（1番目～3番目：各単一回答の合計） Q19

⁴ 結果として本設問の回答においては選択順位を区別せず、単純合計として集計を行った。

ヘルメットの購入時において重視する点について、ヘルメット所有層・非所有層の間で比較を行った結果を図 27 に示す⁵。所有層では「価格」(60.4%)、「デザイン (形状・色)」(55.2%)、「着用時に頭にフィットするか」(32.9%) の順に回答が多かった。

非所有層では、所有層同様に「価格」が 60.7% で最も多くなったが、次いで「わからない、特にない」(48.7%)、「デザイン (形状・色)」(44.0%) の順となった。これら以外には、所有層と非所有層の間で、「サイズ」(それぞれ 30.4%、19.1%)、「メーカー・ブランド」(それぞれ 18.5%、11.4%) において 7~11 ポイントの差が見られ、いずれも所有層の方が多くなった。

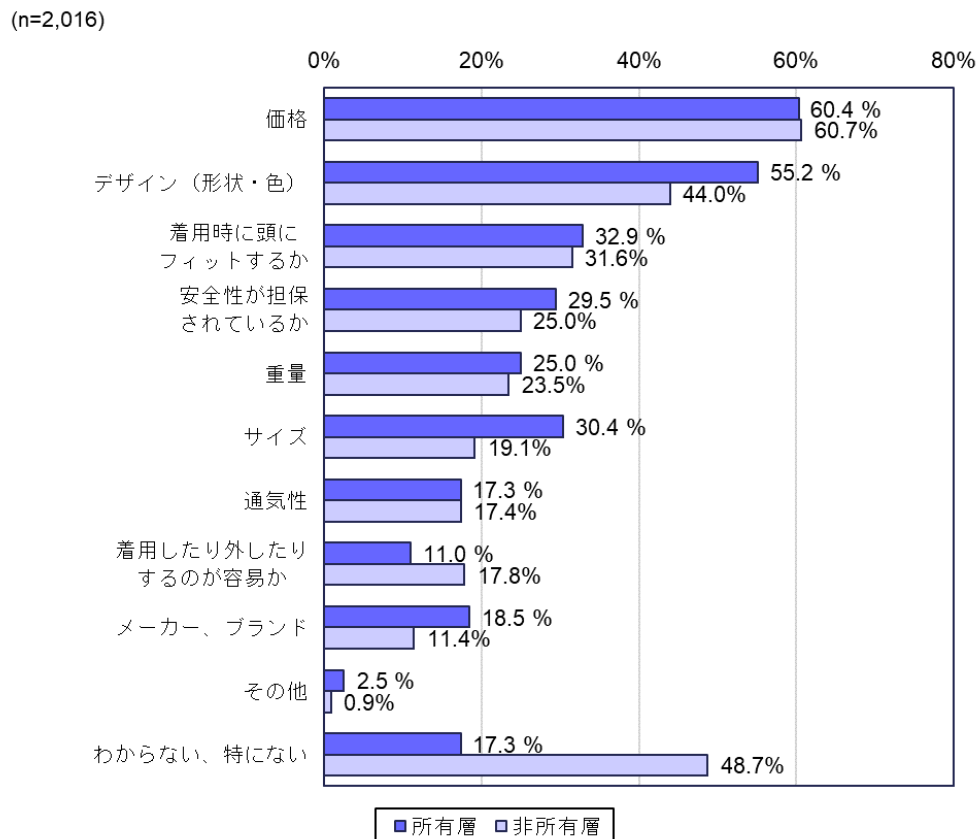


図 27 ヘルメットの購入時において重視する点：所有層・非所有層間での比較
(1 番目~3 番目：各単一回答の合計) Q19×Q9

⁵ 結果として本設問の回答においては選択順位を区別せず、単純合計として集計を行った。

購入・入手した、あるいは入手したいヘルメットの種類について尋ねた結果（図 28）、「日常用（つばがないヘルメット）」が最も多く 17.3%、次いで「日常用（キャップタイプ）」が 13.3%、「日常用（つばのあるヘルメット）」が 12.8%、「日常用（つばのあるヘルメット、つばが取り外しできるものも含む）」が 12.1%となった。

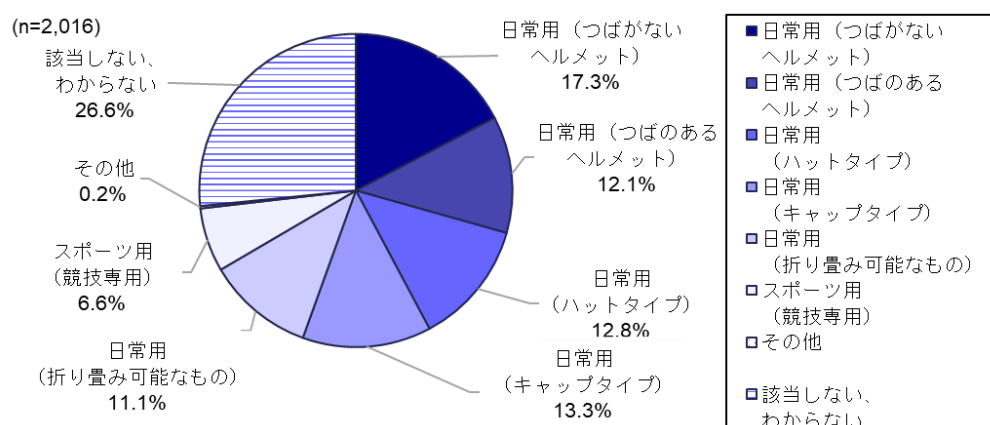


図 28 購入・入手した／したいヘルメットの種類（単一回答）Q20

Q9（図 12）のヘルメット着用状況の設問において、ヘルメットを「常に着用している」「時々着用している」および「持っているが、着用していない」層（以下「所有層」と表記する。）と「今は持っておらず着用していないが、今後入手し着用するつもり」および「持っておらず、今後着用するつもりもない」と回答した層（以下「非所有層」と表記する。）に分け、購入・入手した、あるいは入手したいヘルメットの種類に関する回答を比較した（図 29）。所有層では「日常用（つばがないヘルメット）」「日常用（つばのあるヘルメット）」と回答した者で計 52.2%を占める他、「スポーツ用（競技専用）」の割合も 19.6%と高い。一方、非所有層では「該当しない、わからない」と回答した者が 33.2%と最も多くなった。また、「日常用（折り畳み可能なもの）」と回答した者が所有層の 2.7%に比べ、非所有層は 13.4%と高かった。

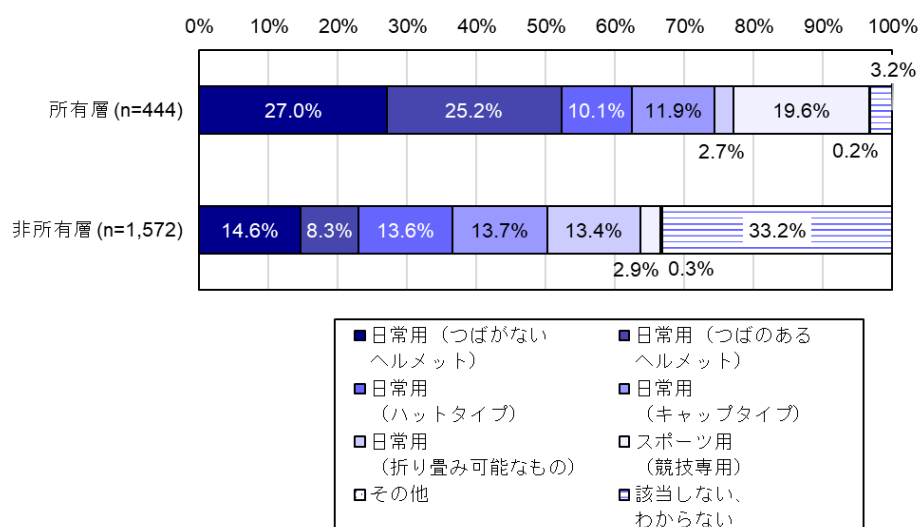


図 29 購入・入手した／したいヘルメットの種類の所有者層・非所有者層間での比較 Q20×Q9

購入した、あるいは今後購入したいヘルメットの種類を性年代別に見ると(図 30)、男性では、若年層の方が「日常用(つばがないヘルメット)」を選択している比率が高い(20代以下:25.0%、70代以上:17.3%)一方、高齢者層では「日常用(つばのあるヘルメット)」を選択している比率が高い(20代以下:8.9%、60代:11.9%、70代以上:19.6%)。また、「日常用(折り畳みが可能なタイプ)も、比較的中高年層に多い傾向となっている(20代以下:7.7%、40代以上:16.7~17.9%)。

女性においては、男性と比べると全年代的に「日常用(ハットタイプ)」を選択している比率が高く、高齢者層ほどその比率が高い(20代以下:11.9%、70代以上:35.1%)。一方で「日常用(つばがないヘルメット)」は男性と比較して割合が低い(20代以下男性:25.0%、20代以下:20.8%、70代以上男性:17.3%、70代以上女性:6.0%)。

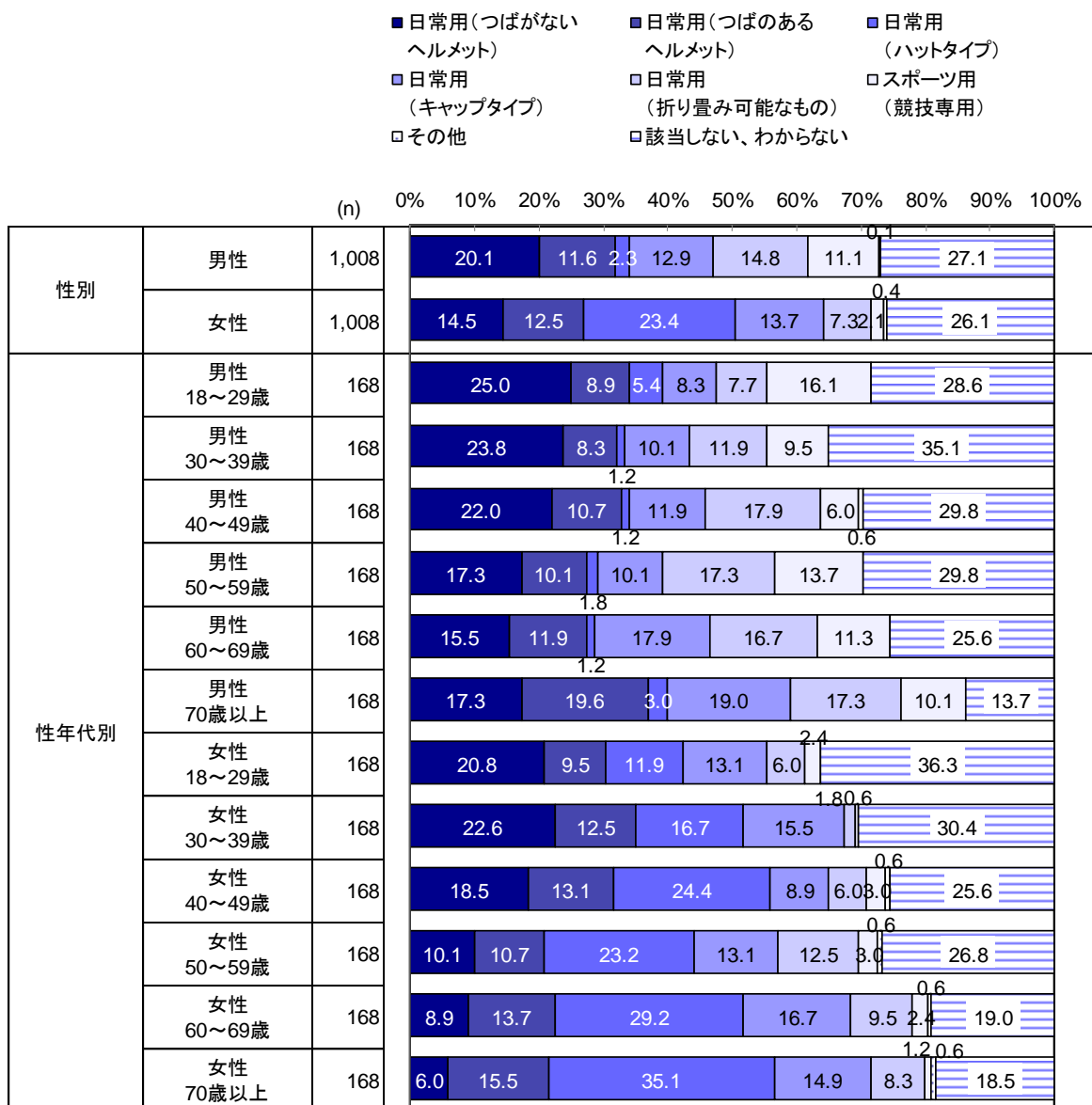


図 30 性年代別：購入・入手した/したいヘルメットの種類 Q20×SQ1×SQ2

9 ヘルメットの着用の仕方に関する状況

自転車乗車時のヘルメットのかぶり方に関する質問（図 31）では、「前から後ろにかけて水平になるようにかぶっている」が 70.0%となったが、一方で「前に傾き気味でかぶっている」と回答した者が 17.7%、「後ろに傾き気味でかぶっている」が 4.5%という結果となった。

また、着用時のサイズ調節（図 32）についての質問には、「適正なサイズでかぶっている」が 81.0%となり、「ゆるめにかぶっている」が 8.7%、「きつめにかぶっている」が 6.8%となった。

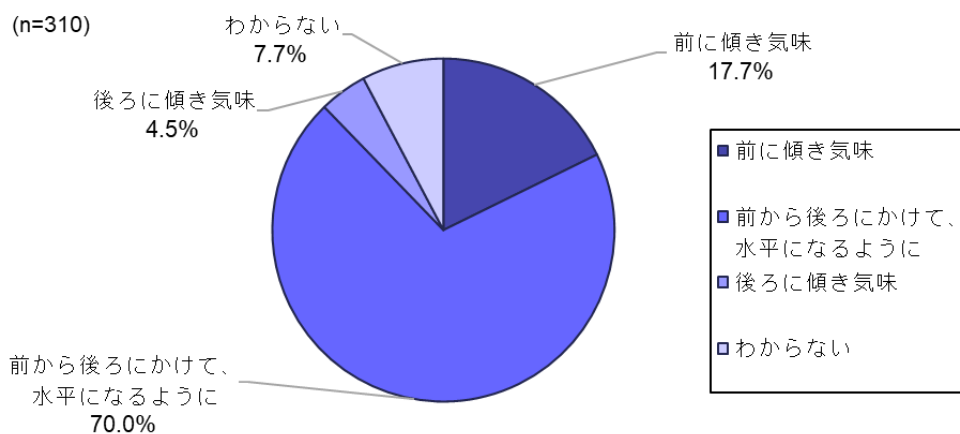


図 31 自転車乗車時のヘルメットのかぶり方（単一回答）Q21

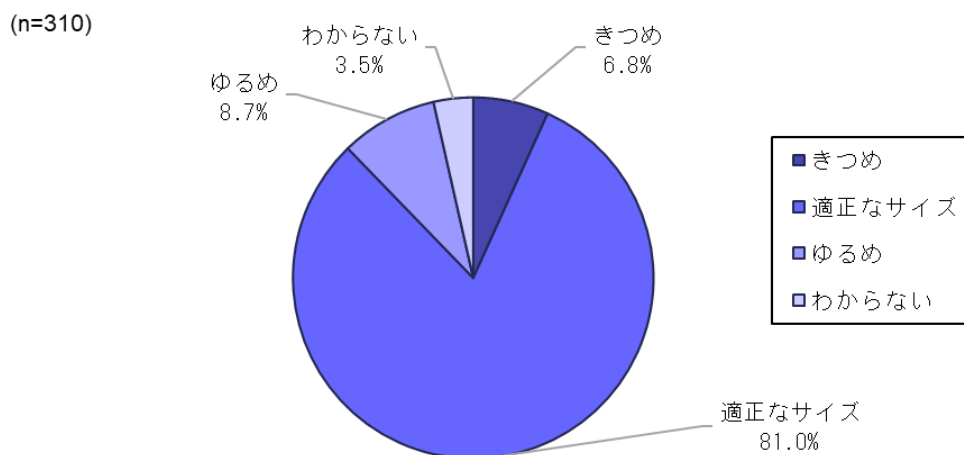


図 32 自転車乗車時のヘルメットのサイズ調節（単一回答）Q22

ヘルメット着用時のあご紐の調節については、「あごとあご紐の間に指1～2本が入る程度の長さで締めている」が58.1%となり、「きつめに締めている」が22.9%、「緩めに締めている」が11.9%となった。一方で「締めていない」が3.2%、「あご紐が元々ない、あるいは取り外している」との回答も0.6%となった。

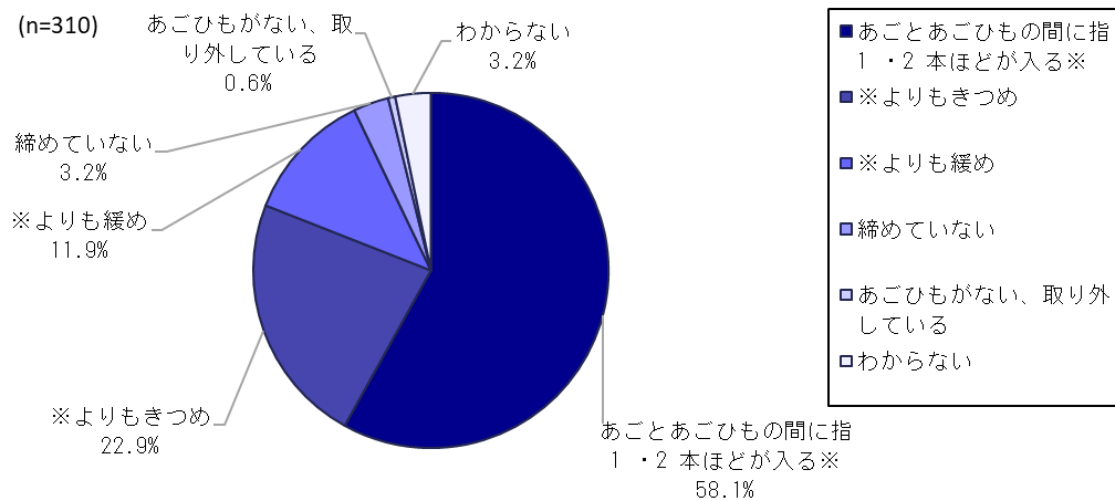


図 33 ヘルメット着用時のあご紐の使用状況（単一回答）Q23

あご紐の使用状況を性年代別にみると（図 34）、男性・女性とも、若年代ほどあご紐を「緩めに締めている」（男性 20 代以下：20.5%、女性 20 代以下：15.4%）、あるいは「きつめに締めている」（男性 20 代以下：25.6%、女性 20 代以下：42.3%）と回答した割合が高く、適正な調節結果である「あごとあご紐の間に指 1・2 本ほどが入る」割合は若年層で相対的に低くなり（男性 20 代以下：38.5%、女性 20 代以下：38.5%）、男性・女性とも 50 代で最も高い割合となっている（男性 50 代：74.1%、女性 50 代：81.8%）。

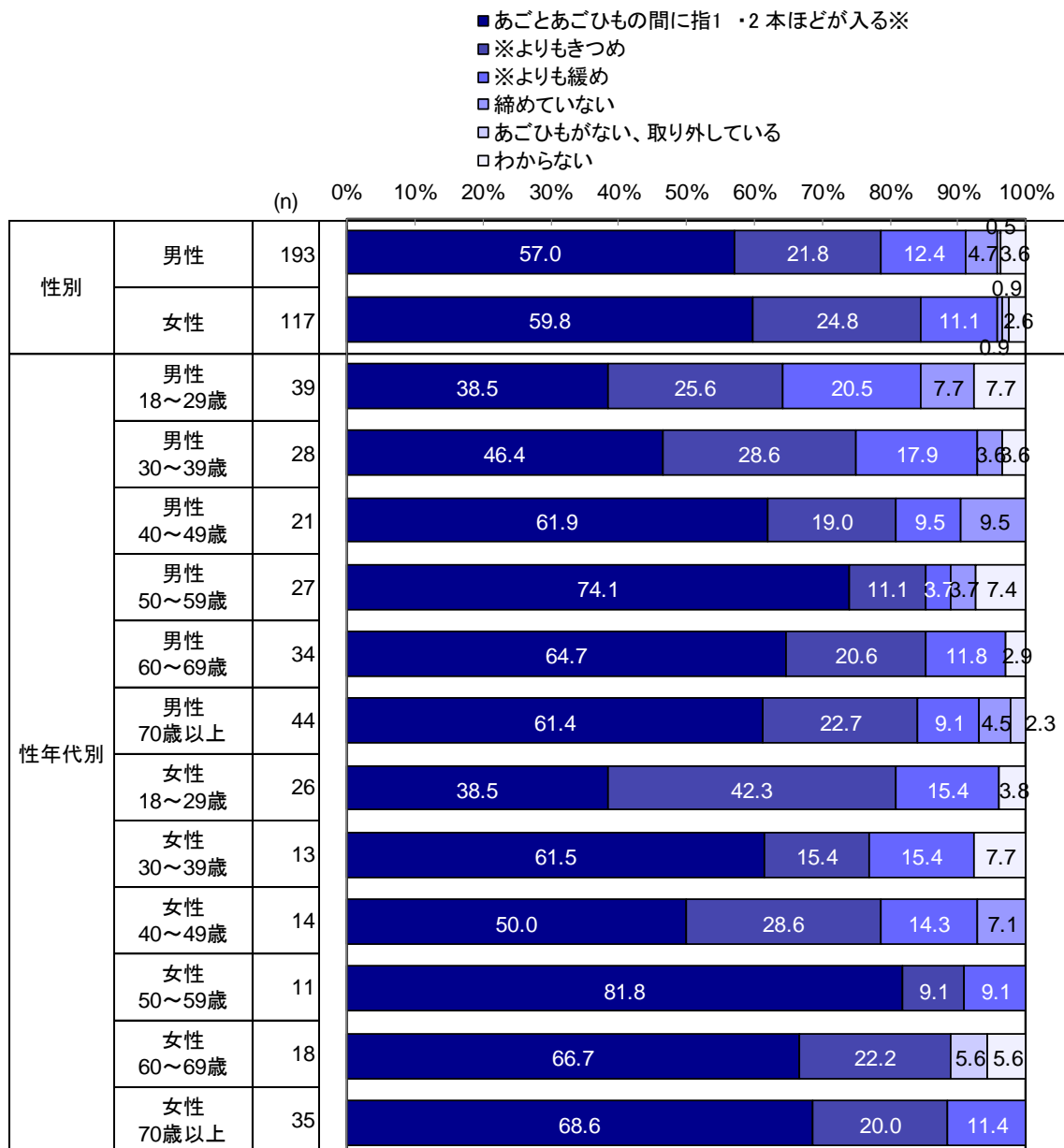


図 34 性年代別のヘルメット着用時のあご紐使用状況 SQ1×SQ2×Q23

10 ヘルメットの着用行動に関するその他の状況

ヘルメット着用時のサイクルキャップ・帽子等の着用状況（図 35）について尋ねたところ、サイクルキャップや帽子は着用せず直接ヘルメットをかぶっている、との回答が 65.5%となった。サイクルキャップやインナーキャップなどの自転車ヘルメット装着時用の帽子をかぶっている者は 18.4%であり、通常のキャップなどの帽子をかぶっている者は 15.5%となった。

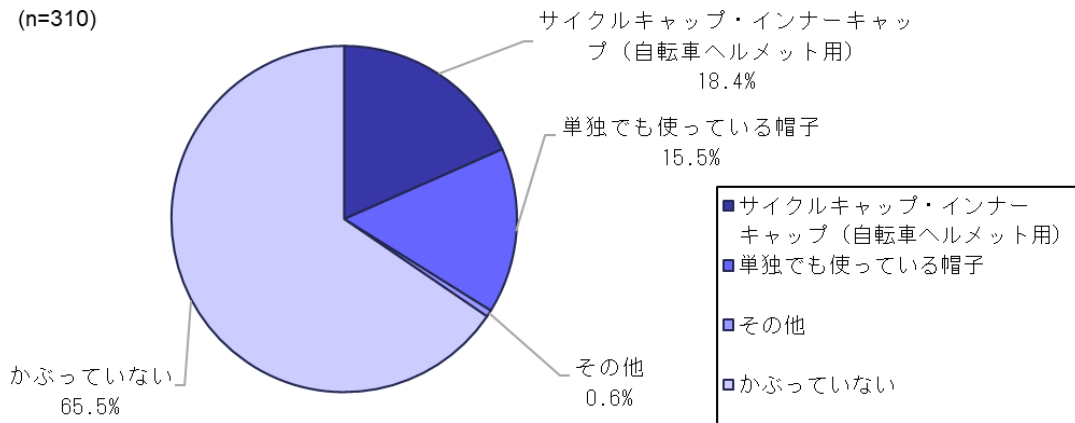


図 35 ヘルメット着用時のサイクルキャップ・帽子等の着用状況（単一回答）Q24

自転車から離れた際にヘルメットをどのように扱っているかを尋ねた結果（図 36）、「自転車のかごの中に置く」が最も多く 35.2%となり、次いで「手で持ち運ぶ」が 21.3%、「かばんや袋に収納して持ち運ぶ」が 15.2%となった。「自転車のヘルメットホルダーに固定する」と回答した者も 6.1%いた。

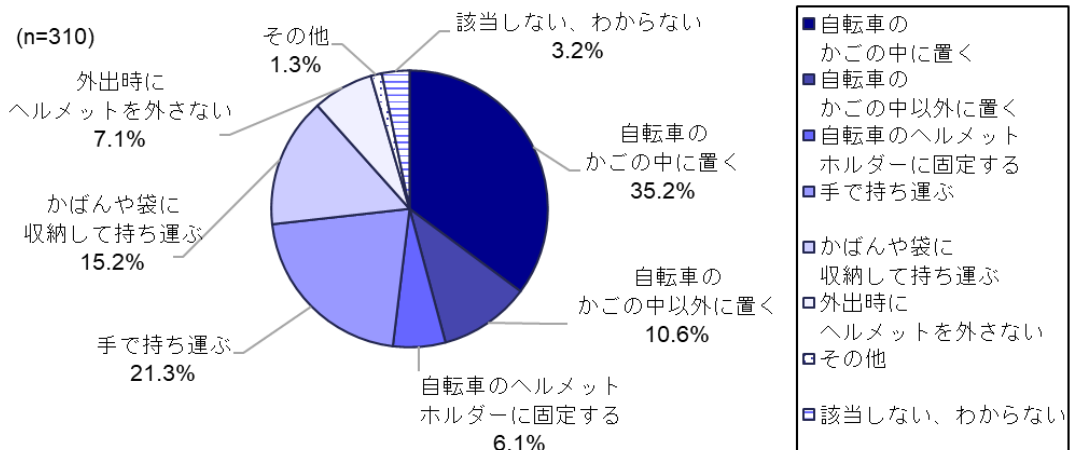


図 36 自転車降車時のヘルメットの扱い（単一回答）Q25

ヘルメットを交換したことがある場合、あるいは交換する場合の交換の理由について、質問した結果を図 37 に示す。「ヘルメット外側のシェルが劣化した際」と回答した者が最も多く 25.5% となり、次いで「ヘルメット内側のインナーがひどく劣化した際」との回答が 23.9%、「使用時に違和感があったら」との回答が 18.2%となった。

主要メーカーでは、ヘルメットに強い衝撃が加わった際や3年を目安とする耐用期間の経過後に交換が推奨されているが、この推奨に対して、「着用中に転倒するなどして、ヘルメットを地面などに強くぶつけたら」と回答した者は 13.8%、「メーカーが示している耐用期間が過ぎたら」と回答した者は 11.5%であった。一方、「ヘルメットはずっと使えるので替えるつもりはない」との回答も 9.1%あった。

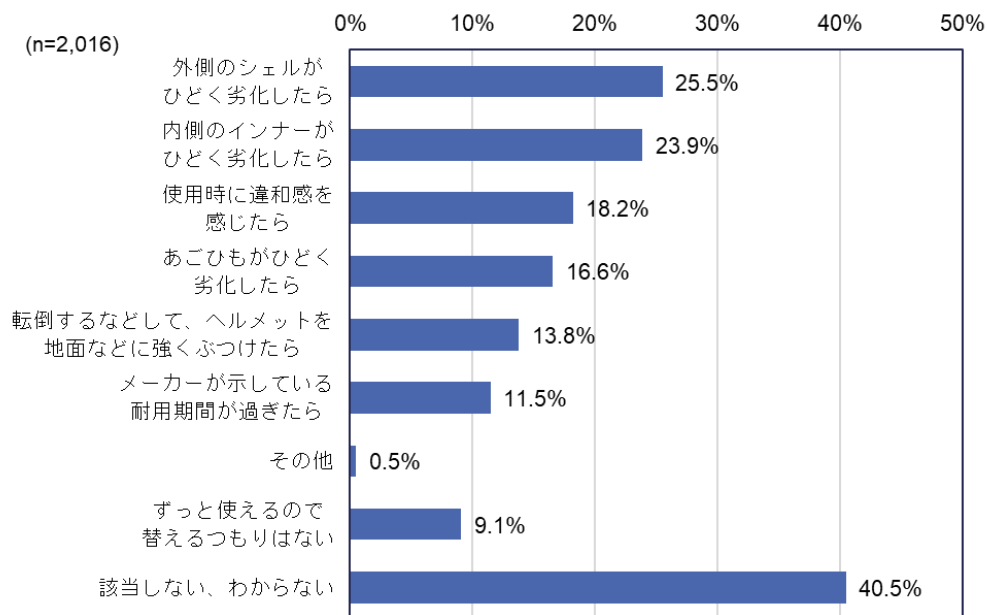


図 37 ヘルメット交換時の理由（複数回答）Q26

ヘルメット交換の理由を所有層・非所有層で比較した結果を図 38 に示す。非所有層では「該当しない、わからない」が 45.7%と最も高い割合となった。「外側のシェルがひどく劣化したら」は所有層で 28.4%、非所有層で 24.7%となり、いずれの層でも回答割合が大きくなった。「内側のインナーがひどく劣化したら」も所有層 25.5%、非所有層 23.4%と両層で高い割合を示した。

「ヘルメットを地面などに強くぶつけたら」は所有層で 22.7%、非所有層で 11.3%と、差が大きくなった。また、「メーカーが示している耐用期間が過ぎたら」も所有層 19.4%、非所有層 9.2%と差が大きい結果となった。「ずっと使えるので替えるつもりはない」は非所有層に比べて所有層の方が高く、16.0%であった。

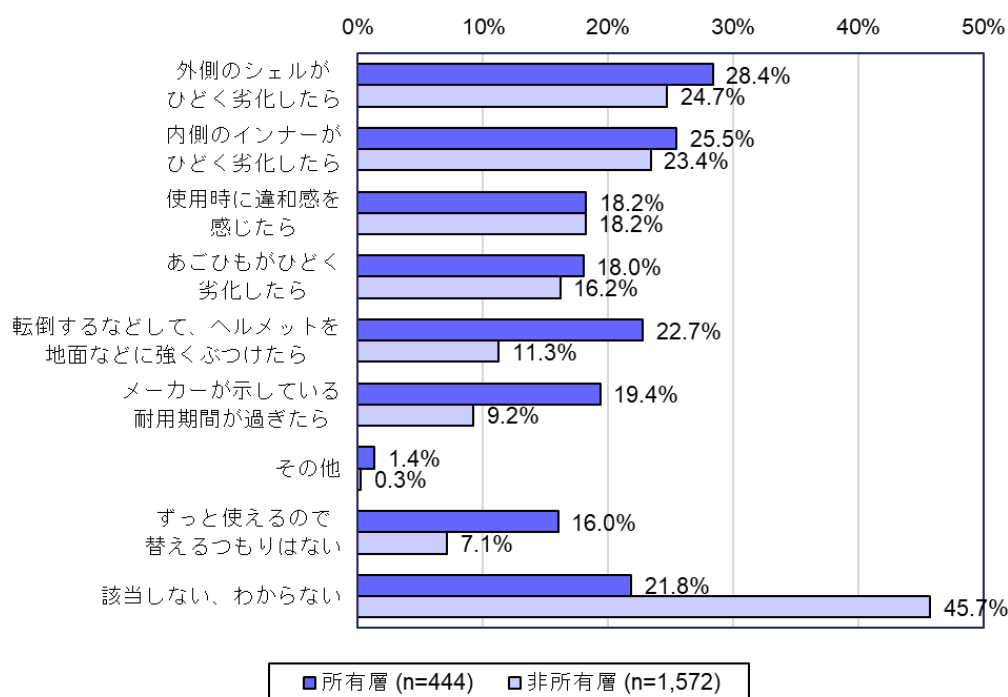


図 38 ヘルメット交換時の理由：所有層・非所有層間での比較 Q26×Q9

ヘルメットに耐用期間があることの認知状況を尋ねた結果を図 39 に示す。「知っていた」との回答が 13.2%、「聞いたことはあるが内容は知らなかった」が 15.8%にとどまり、71.0%の者が「知らなかった」と回答した。

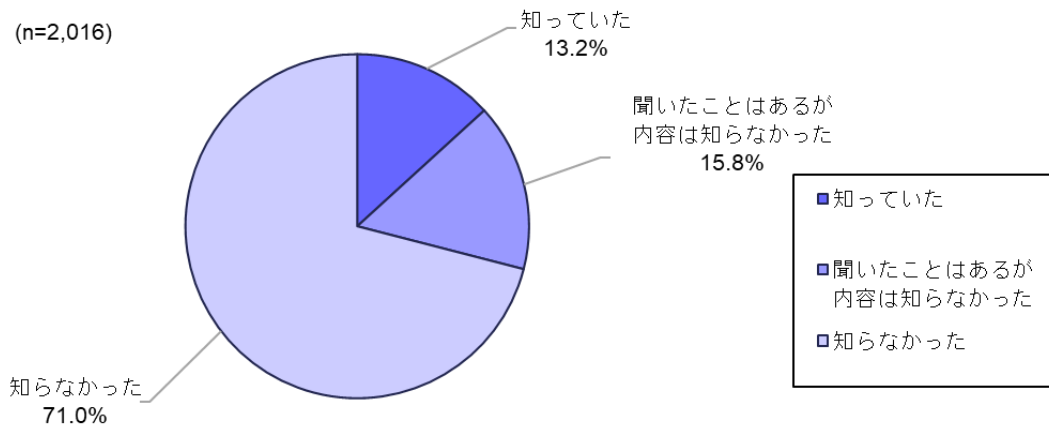


図 39 ヘルメットの耐用期間に関する認知状況（単一回答）Q27

ヘルメットに耐用期間があることの認知状況を所有層・非所有層の間で比較した結果を図 40 に示す。所有層では「知っていた」が 27.0%、「聞いたことがあるが内容は知らなかった」が 23.2%と、約半数の認知率であった。非所有層では「知っていた」が 1 割以下にとどまり、「聞いたことがあるが内容は知らなかった」をあわせても 23.1%となった。

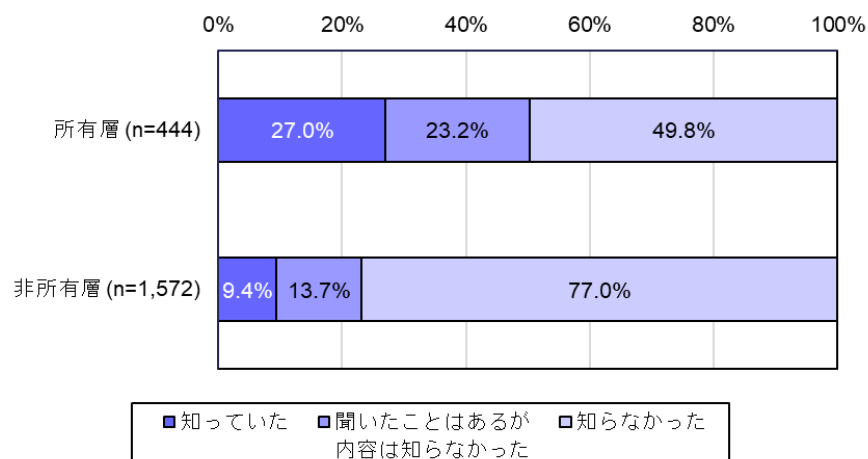


図 40 ヘルメットの耐用期間に関する認知状況：所有層・非所有層間での比較 Q27×Q9

強い衝撃を受けたヘルメットが十分な保護性能を発揮しない可能性があることについて、認知状況を尋ねた結果を図 41 に示す。「知っていた」が 30.1%、「知らなかった」が 69.9%となった。

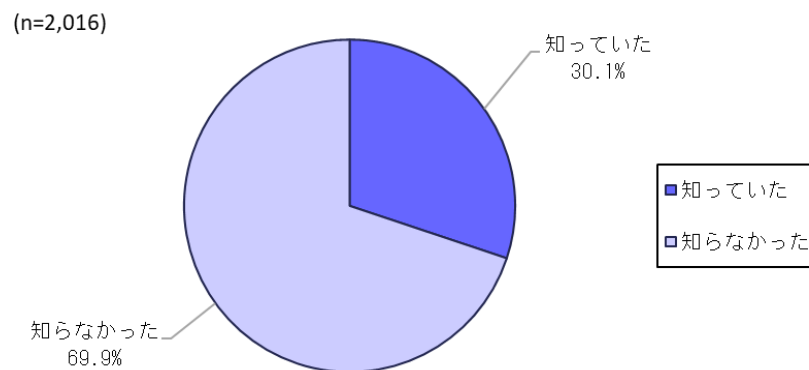


図 41 強い衝撃を受けたヘルメットの保護性能低下に関する認知状況（単一回答）Q28

衝撃を受けたヘルメットの保護性能低下に関する認知状況を所有層・非所有層の間で比較した結果を、図 42 に示す。所有層では約半数の 46.8%、非所有層では所有層の約半分にあたる 25.4%の認知率であった。

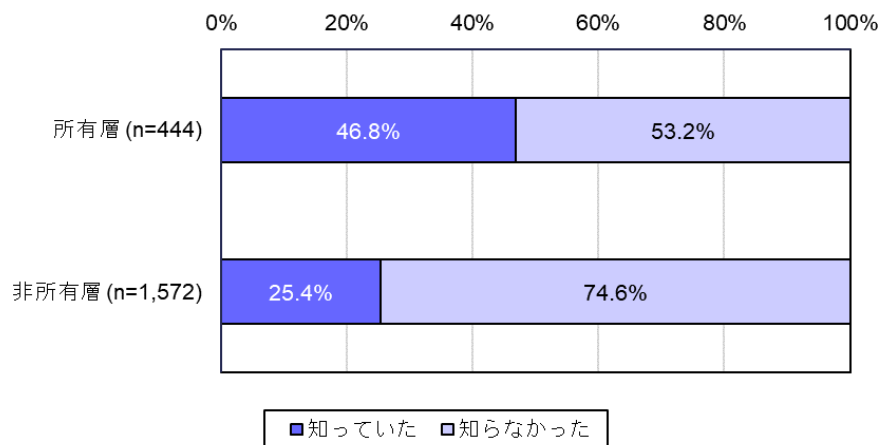


図 42 強い衝撃を受けたヘルメットの保護性能低下に関する認知状況：
所有層・非所有層の比較 Q28×Q9

1.1 自転車用ヘルメットのあり方に関する消費者の認識・意見等

自転車用ヘルメットを購入する場合に適当と思う金額について尋ねた結果を図 43 に示す。「3,000 円～5,000 円未満」との回答が 31.9%、次いで「1,500 円～3,000 円未満」との回答が 26.6%、「1,500 円未満」が 13.3%となり、あわせて約 7 割が 5,000 円未満を自転車用ヘルメットの適正額として考えている。

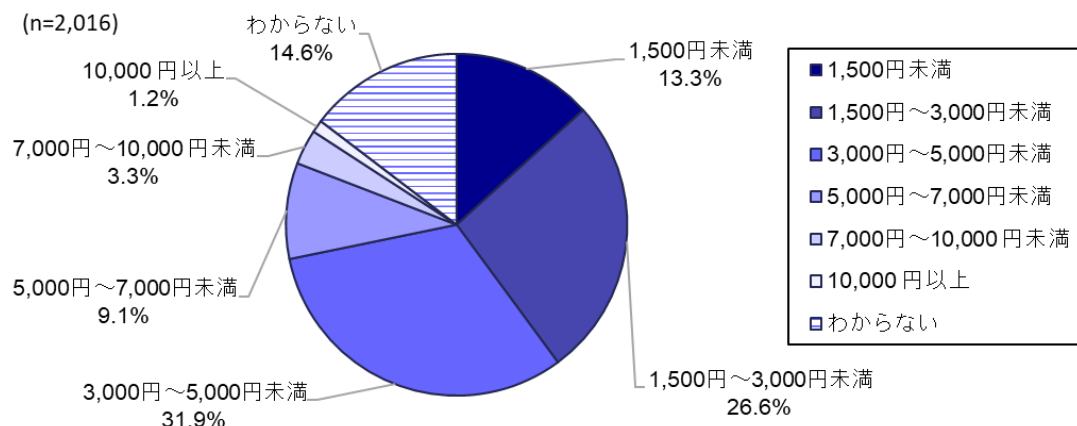


図 43 自転車用ヘルメット購入時に適当と考える金額（単一回答）Q29

自転車用ヘルメット購入時の適正額の認識を、所有層・非所有層の間で比較した結果を図 44 に示す。「3,000 円～5,000 円未満」の回答割合が、所有層では 41.9%、非所有層では 29.1%となり、約 11 ポイントの差が付いた。また、「1,500 円未満」の回答割合は非所有層で 15.8%となり、所有層に比べ約 11 ポイント高くなった。

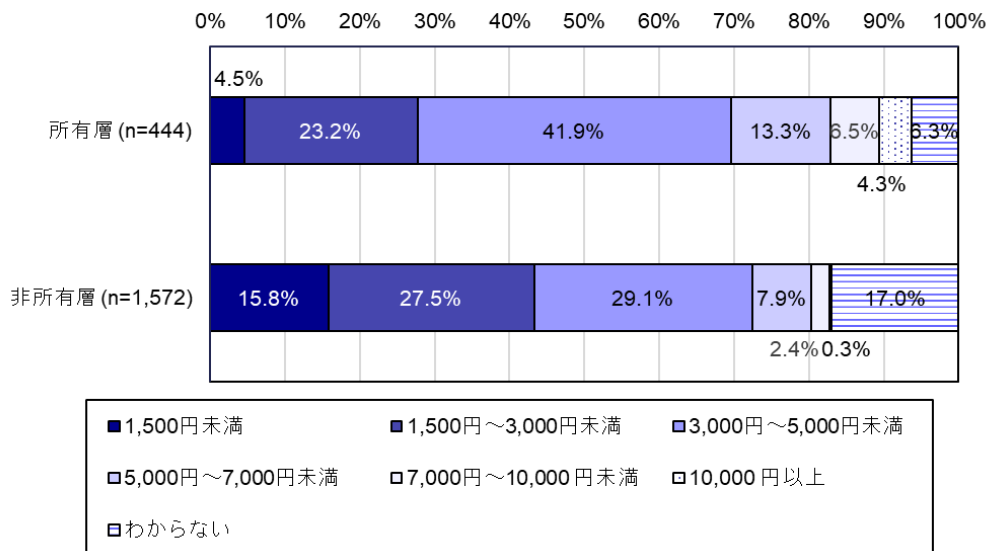


図 44 自転車用ヘルメット購入時に適当と考える金額：所有層・非所有層間での比較 Q29×Q9

性年代別に自転車用ヘルメットの適正金額の認識をみると(図 45)、男女とも若年層ほど「1,500円未満」の回答割合が高い(男性 20 代以下: 19.0%、女性 20 代以下: 19.6%、男性 70 代以上: 7.7%、女性 70 代以上: 7.1%)。

男女別では、女性の方が多くの年代で男性より「3,000円~5,000円未満」「5,000円~7,000円未満」の割合が高い傾向にある。

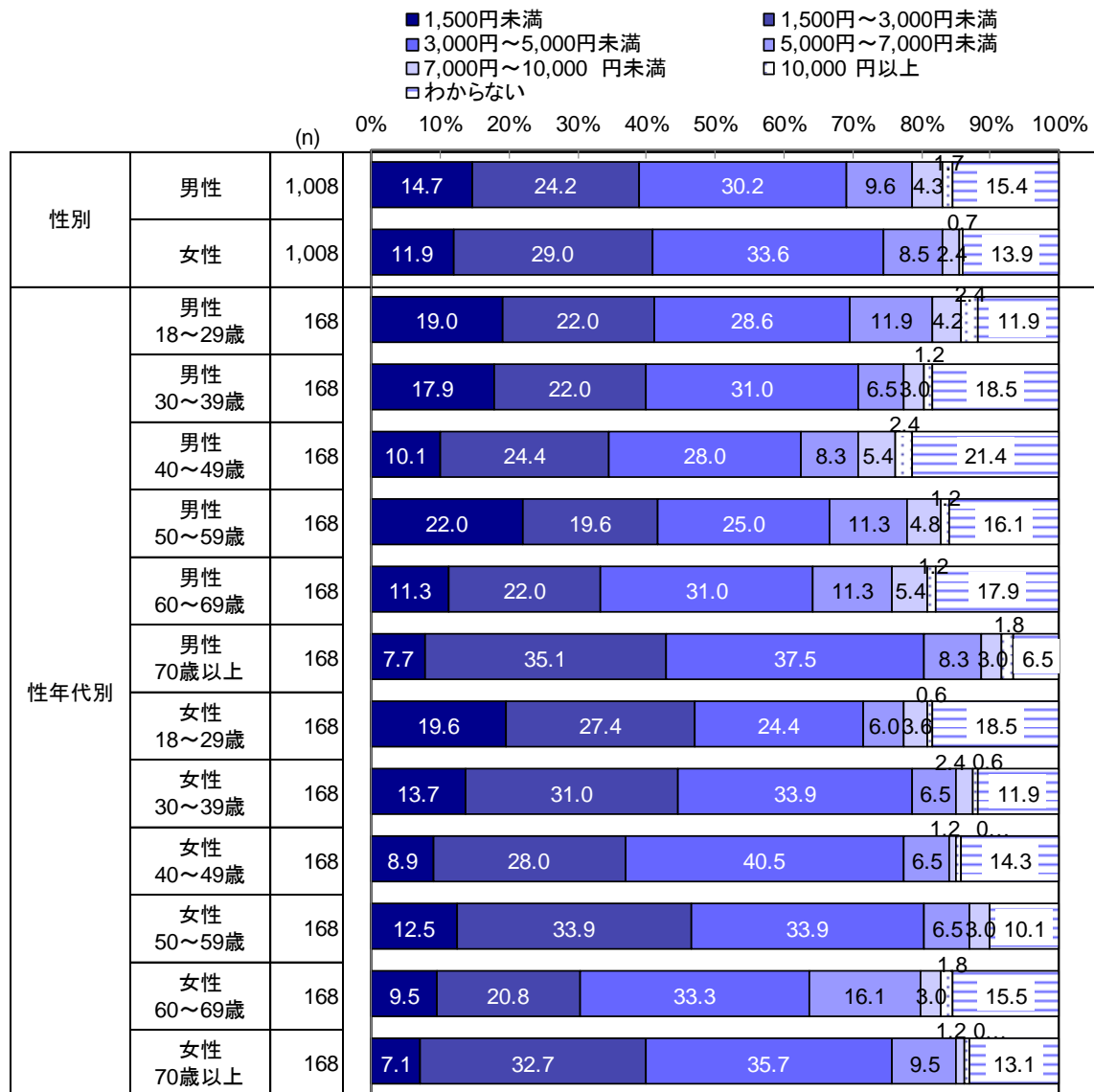


図 45 性年代別の自転車用ヘルメット適正金額の認識 Q29×SQ1×SQ2

自転車用ヘルメットに対し改善を希望する点などについて、複数選択式で尋ねた結果を図 46 に示す。最も多い回答は「デザイン（ヘルメットの形状・色・質感）」で 46.5%となり、次いで「外出先などで自転車を離れる際の持ち運びや保管のしやすさ」が 35.7%、「通気性」32.8%などとなった。また「安全性が担保されているか」との回答は 22.3%であった。「その他」における自由記述での主な回答内容として、「価格」6件、「携帯性・収納性」、「機能性（耐久性、日焼け対策、メンテナンス性）」、「快適性（暑さ対策、視界、髪型への配慮）」各 5件、「安全性」3件などがあつた。

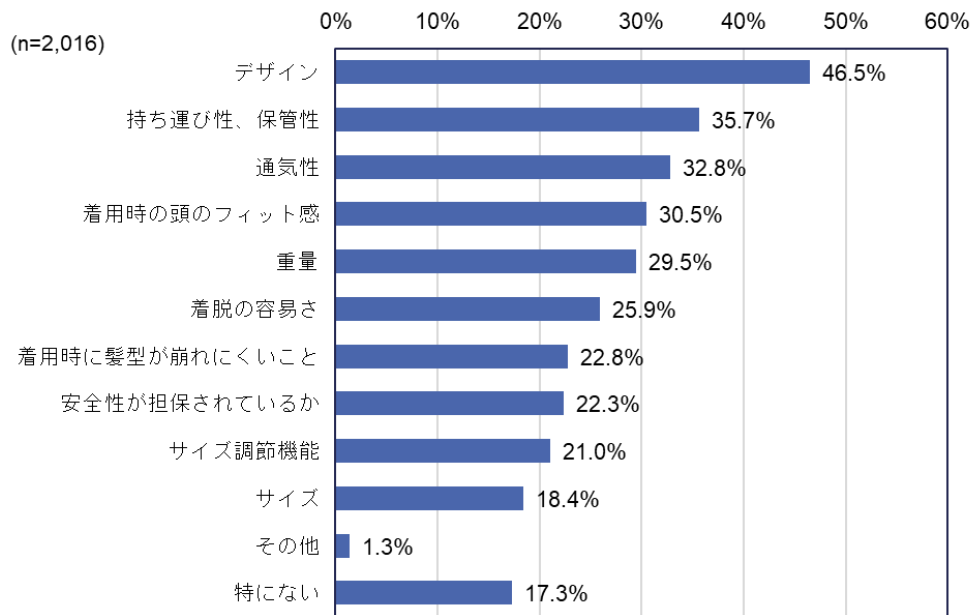


図 46 自転車用ヘルメットに対する改善希望内容（複数回答）Q30

自転車用ヘルメットに対し改善を希望する点について、所有層・非所有層間での比較を行ったものを図 47 に示す。所有層で多かったものは順に「デザイン」49.5%、「着用時の頭のフィット感」37.8%、「通気性」36.0%であった。非所有層では所有層同様に「デザイン」が最も多く45.6%となり、次いで「持ち運び性、保管性」37.0%、「通気性」31.9%であった。所有層と非所有層の間で差が大きかったのは「着用時の頭のフィット感」（所有層 37.8%、非所有層 28.4%）、「サイズ」（所有層 25.2%、非所有層 16.4%）、「安全性が担保されているか」（所有層 27.3%、非所有層 20.9%）であった。

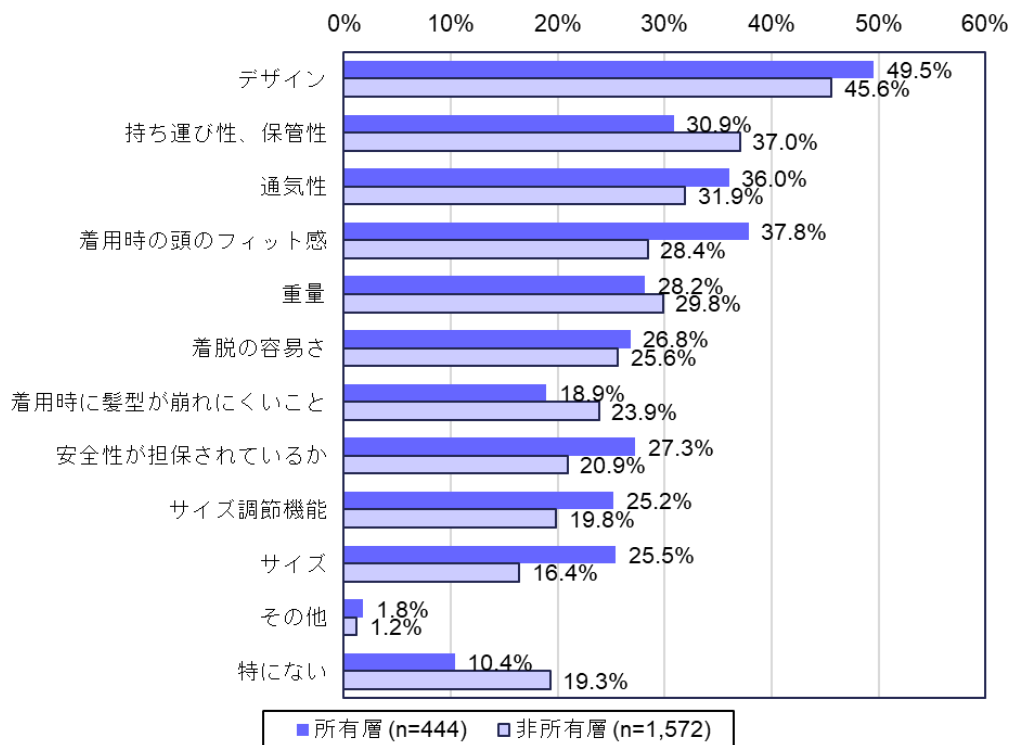


図 47 自転車用ヘルメットに対する改善希望内容：所有層・非所有層間の比較 Q30×Q9

自転車利用者のヘルメット着用が社会に浸透するために必要な取り組みについての意見を、複数選択式で質問した結果を図 48 に示す。「購入しやすい価格のヘルメットの普及」が最も多く 42.0%となり、次いで「法令上、着用を努力義務ではなく着用義務にすること」が 41.1%、「折り畳み式などの持ち運びが便利なヘルメットの普及」が 31.7%などとなった。

「その他」の自由記述回答として、「危険運転など交通法規の取締り強化・罰則強化、自転車用道路の整備」などが計 10 件、「行政によるヘルメットの購入助成や無料配布」が 6 件、着用することの重要性や着用しないことのリスクを周知すること、が 3 件あった。

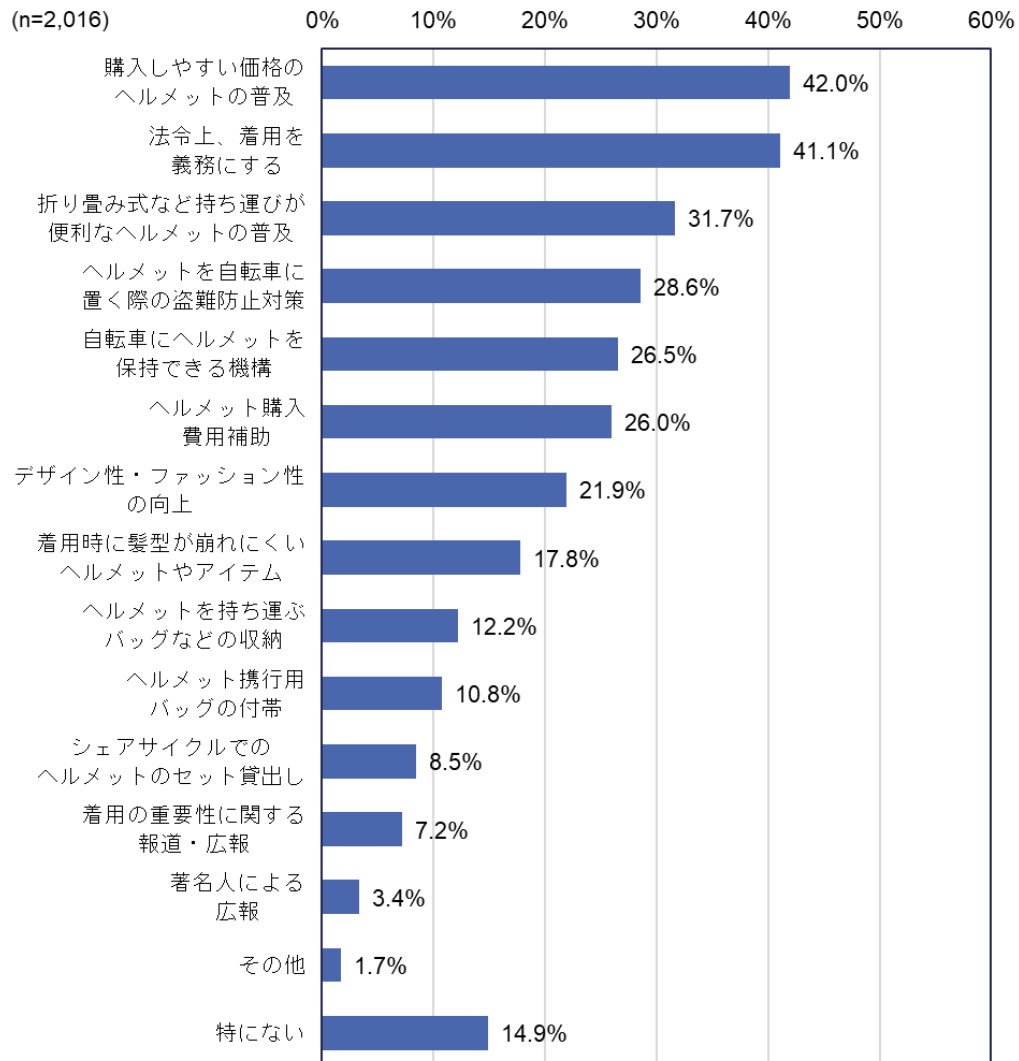


図 48 自転車利用者のヘルメット着用が社会に浸透するための課題認識（複数回答）Q31

自転車利用者のヘルメット着用が社会に浸透するための課題認識について、ヘルメット所有層・非所有層の間で比較を行った結果を図 49 に示す。「購入しやすい価格のヘルメットの普及」と回答した割合は、所有層・非所有層の間で差が見られなかった（所有層 42.1%、非所有層 41.9%）。「法令上、着用を義務にする」は所有層で 50.2%と高く、非所有層（38.5%）とは差が大きい結果となった。

駐輪時のヘルメットの搬送性・保管性については前述の各設問で指摘が多かったが、ここでは「折り畳み式など持ち運びが便利なヘルメットの普及」（所有層 30.9%、非所有層 31.9%）、「ヘルメットを自転車に置く際の盗難防止対策」（所有層 33.3%、非所有層 27.2%）、「自転車にヘルメットを保持できる機構」（所有層 26.1%、非所有層 26.7%）と高い割合を示し、所有層・非所有層とも降車時のヘルメットの扱いについて課題認識していることが分かった。

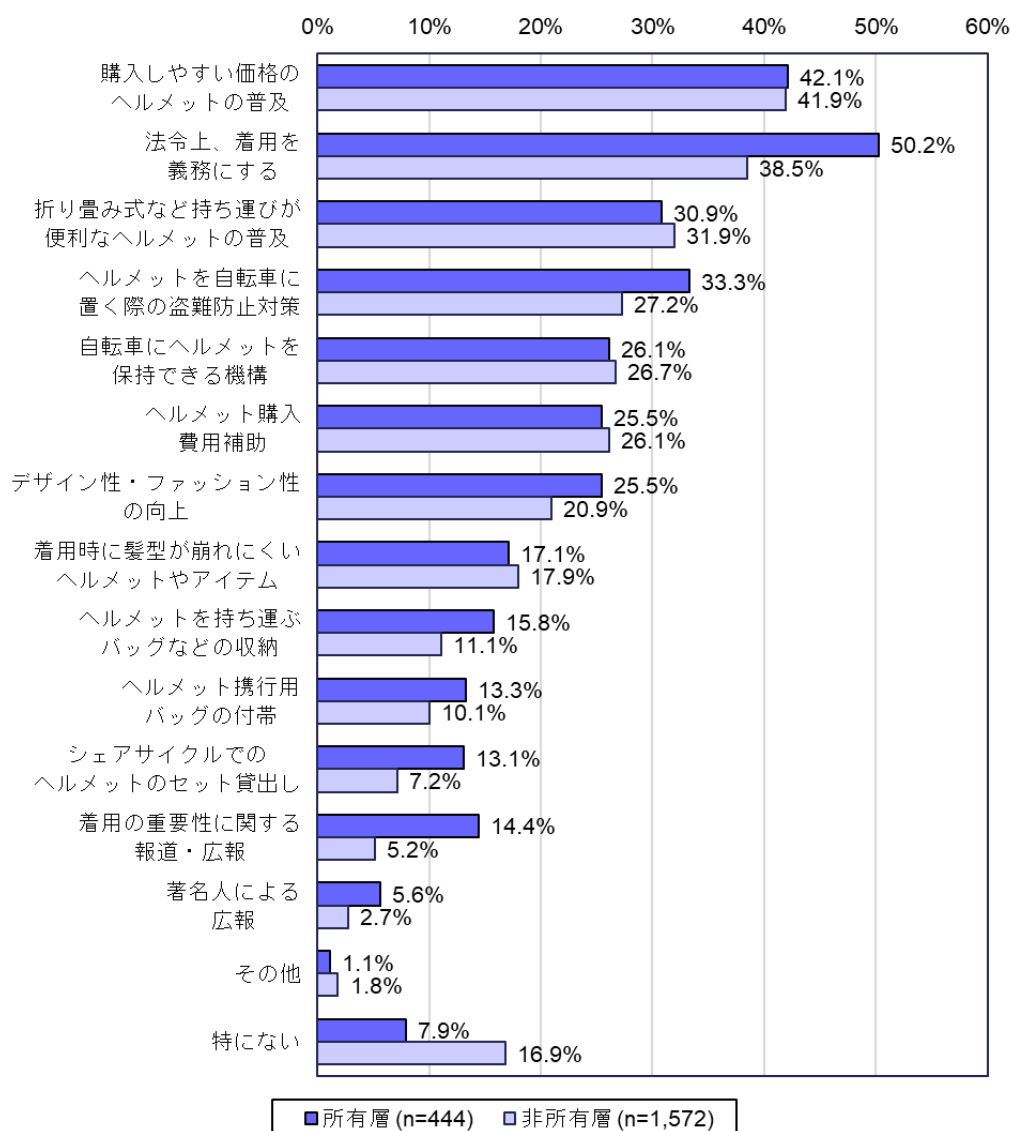


図 49 自転車利用者のヘルメット着用が社会に浸透するための課題認識：所有層・非所有層間の比較 Q31×Q9

最後に、自転車用ヘルメットに関する意見、ヘルメット着用の努力義務について感じること、着用義務になった場合の自転車の利用についてなどに関する意見を自由記述形式で尋ねた。得られた回答に対し、内容によって付与した分類を集計した結果を表 4 に示す（有効分類件数 1,243 件）。また、回答のうち代表的なものを、分類ごとに表 5 に示す。大分類別では「義務化・努力義務関連」に関する回答が 572 件で最も多く、次いで「ヘルメット本体、着用行動関連」520 件、「施策関連ほか」354 件となった。

大分類「義務化・努力義務関連」では、中分類として「義務化により自転車の利用が減る・自転車に乗るのをやめる」などといった「義務化により自転車利用頻度に影響」という回答が 142 件あり、次いで「義務化すれば着用する・着用せざるを得ない」137 件、「着用義務の必要性」129 件の順となった。

大分類「ヘルメット本体、着用行動関連」では、中分類として最も多かったのが、自転車降車時のヘルメットの扱い、持ち運びの煩雑性への不満や自転車への収納・折りたたみ型ヘルメットの要望、ヘルメット盗難防止等の機能の要望などの「ヘルメットの携帯性・収納に関する不満・改善要望」248 件であり、次いで着用時の蒸れや暑さ、髪型の乱れへの対応といった不快の解消などを含む「ヘルメットの快適性・機能性への不満・改善要望」128 件であった。

大分類「施策関連ほか」では、ヘルメットの着用義務化よりも自転車や自動車他の交通ルール順守・マナーの向上を促すべき、といった、「交通ルール・マナー向上等の交通施策・環境整備」が最も多く（169 件）、次いで「より安価なヘルメットを販売して欲しい」、「ヘルメット購入費用の補助がほしい」といった「費用に関する意見・要望、購入補助の要望」（115 件）であった。

表 4 自転車用ヘルメットに関する全般意見の分類数集計結果 Q32 (n=1,243)

大分類	中分類	件数 (件)
義務化・努力義務関連		572
	着用義務の必要性	129
	義務化すれば着用する／せざるを得ない	137
	義務化により自転車利用頻度に影響	142
	義務化への反対・反発	69
	努力義務の有効性への疑問	115
ヘルメット本体、着用行動関連		520
	着用による面倒・手間・負担の発生	105
	ヘルメットのデザインの不満・改善要望	95
	ヘルメットの快適性・機能性への不満・改善要望	128
	ヘルメットの携帯性・収納に関する不満・改善要望	248
施策関連ほか		354
	購入のしやすさ・情報提供等/自転車本体とのセット販売	27
	費用に関する意見・要望、購入補助の要望	115
	広報・周知に関する意見	50
	交通ルール・マナー向上等の交通施策・環境整備	169

表 5 自転車用ヘルメットに関する全般意見の抜粋 Q32

分類	回答内容
義務化により 自転車利用 頻度に影響 義務化・ 努力義務 関連	着用義務になった場合は自転車の利用をやめます。努力義務のまま で、何かあった場合は自己責任で良いと思います。子供や高齢者は義 務でも良いとは思いますが。(30代・女性)
	面倒と思っていたが、実際に事故に遭うと自分の身を守ってくれるア イテムと強く実感する。重篤な後遺症を減らすために、義務にした方 が良い。(70代・女性)
	小さい子供を連れた自転車利用者が多くいる。荒い運転をされている 方も多く、子供連れは人を避ける時にスピードが出ていることもあり よろけているのを見かける。日本は道が狭く、車道側を走っていても 歩道を走らざるを得ない場面がある。危ない道を走るのヘルメット は着用したほうがいい。(20代・女性)
	電動アシスト自転車は結構スピードが出ているので、ヘルメット着用 は義務化すべきだと思う。(60代・男性)
	自転車を乗る全ての人にヘルメットが必要だとは思わない。子供や高 齢者、ロードバイクのようなスピードの出る自転車の利用者だけで十 分では？(40代・男性)
義務化すれば 着用する/ せざるを得ない	着用義務になっても自転車の利用は続ける。自転車側にヘルメットを 固定できるものをつけたり、もっとデザイン性に優れたヘルメットを 発売するなど、業界全体で取り組んで欲しい。(30代・女性)
ヘル メ ット 本 体 、 着 用 行 動 関 連	子ども2人を自転車に乗せるときはヘルメットを着用させているが、 自分も着用するとヘルメットが3つになり出かけるのがますます大変 になる。(40代・女性)
	買い物でよく自転車を使用するが、スーパーなど店内でヘルメットを 持ち歩くのが邪魔だし、荷物を持ち運ぶのにも邪魔になる。安心して 自転車と一緒に置いておきたい。(60代・女性)
	ヘルメットの 携帯性・収納に 関する不満・ 改善要望 自転車を降りたときにどうしたらよいかと思う。子どもは全員ヘルメ ットをかぶっているが、幼稚園の送り迎えにしても、幼稚園に置かせ てもらえないところもあるようでその扱いに大きな負担がかかっている。 自分の場合は自転車置き場で脱いだ後、自転車に置きっぱなしは 心配であること、その後の持ち歩きは大変なこともあり、購入に踏み 切れないでいる。(60代・女性)
	ヘルメットは荷物になるので、かごに置くスペースが確保できたり、 盗難防止のアイテムがあると助かります。また、駐輪場にヘルメット を別に保管できるサービスがあると良いです。(20代・女性)
ヘルメットを着用して方が一の場合に頭を守るのが大事だと思うが、 出先でヘルメットを持ったまま満員電車には乗れないし、自転車置き	

		場に置いておくことも盗難の原因になるので困る。(40代・女性)	
ヘルメットの 快適性・機能 性の不満・改 善要望		ヘルメットの重要性は理解できるが、髪型が崩れることやヘルメットの持ち歩きを面倒に感じる事が懸念。(10代・女性)	
		夏の暑さでは熱中症になりそうで着用できなかった。(80代・女性)	
		学生時代は絶対にヘルメットを着用しなくてはならず、暑くてたまらなかつた。着用感の良いもの、値の張らないものが普及するとういと思う。(30代・女性)	
		ヘルメットのデザインを老若男女問わずにファッションの一部として着用できるようにすれば、着ける人は増えると思う。(20代・女性)	
ヘルメットの デザインの 不満・改善要望		なかなか軽くてデザインもすてきなヘルメットがないので、もっと折りたためたり、収納に便利なものができたらいいと思う。(60代・女性)	
		ヘルメットの重要性も良く理解出来るが、もう少しだけデザインを考えて欲しい。しかも高齢者には重い。(70代・女性)	
施 策 関 連 ほ か	費用に関する 意見・要望、 購入補助の要望	3年しか耐久性がないにもかかわらず、現状だと値段が高すぎると思う。(50代・女性)	
		もっとヘルメット着用の必要性をアピールし、行政の補助を多くするようにしてほしい。装着感が改善出来ればと普及すると思う。(60代・男性)	
		数少ない中からやっとなんとか希望に近いものを見つけたが、値段が高く、とても3年ごとに買い替えられない。(60代・女性)	
	広報・周知に 関する意見	ヘルメットを着ける重要性を宣伝する必要があると思う。以前、タレントさんがヘルメットなしで転倒したために怪我をした写真をSNSで見かけて驚き、ヘルメットの必要性をあらためて感じた。盗まれるのを覚悟で駐輪場にヘルメットを置いているが、他の人は困っている人が一定数いると思う。(40代・女性)	
		ヘルメットによってどのくらい安全性が向上するのか、具体的に知りたい。(60代・女性)	
		ヘルメット着用のメリットを自転車販売店等でわかりやすく提示してもらえると良い。(30代・男性)	
	購入のしやす さ・情報提供等 /自転車本体と のセット販売		なかなか買いにくいから、アドバイスをして欲しい。(40代・女性)
			自転車をかう時にヘルメットとのセット販売があっても良いのでは。(50代・女性)